



(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)

<div style="text-align: center;">  </div>		協働の機会提案書(継続提案用)		7年 9月4日
(あて先) 印西市長		(登録者)	登録番号	04-001
		名 称	ベジガールズ	
		所在地	印西市西の原	
		代表者	飯田 渚	
		連絡先		
		E-mail		
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。				
<input checked="" type="checkbox"/> 自由提案型 <input type="checkbox"/> 指定テーマ型				
提案事業名	年中、年長カラダづくりプロジェクト			
現状・課題 (前年度の実施を踏まえた課題)	近年、子どもたちの運動能力や姿勢の悪化が指摘されている。外で遊ぶ機会の減少やデジタルデバイスの普及により、特に「体幹」と呼ばれる体の中心部を支える筋力が低下していることが、その一因と考えられる。 体幹が弱い事でおこるであろう問題点として以下があげられる。 1、転倒や怪我、骨折リスク増加 2、姿勢保持が難しくなり、集中力低下 3、身体への不調 4、運動の苦手意識から慢性的な運動不足、気力不足 その事から体幹を強化し体力向上をはかる必要がある。 また運動の苦手意識がある子供においては楽しみながら取り込みやすい運動を導入する事で身体活動の増加につながるため、より多く運動出来る場を増やす事が重要である。			
提案理由	乳幼児期は生涯の中で最も神経発達を促すことのできる大切な時期の年長児を対象に令和6年度6月より、公立保育園5園で医療用バランスボールを用いた運動を実施している。 継続したバランスボール運動により運動機能が向上傾向にあった。(別紙添付資料参照) 医療用バランスボールをする事で楽しく効率的に体幹・体力・筋力を向上させるだけではなく、姿勢や呼吸など身体の構造の学びも交える事で自分自身のカラダで感じ自ら意識できるようになることを力添えしていきたい。			
提案内容 (予算の概算は提案書様式①-4)	(前年度の実施を踏まえた改善内容) ・公立保育園5園の年長児を対象に医療用バランスボールを使用した運動指導 ・理学療法士がプログラムを監修する ・実施回数を令和5年の回数に合わせて各園6回実施する ・各園や自宅でも取り組めるよう身体体操や足指体操をレッスンに取り入れ			

	<p>る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供達がカラダの仕組みを知る事の出来る学びも取り入れる ・最終回には年中児向けレッスンを行う <p>●必要経費は1221514円（市に負担を求める額 811648円）です</p>
貴団体の特性、協働で実施するメリット	<p>ベジガールズには様々な資格保有者が在籍しており各種専門的な知識を参考にしながらより良い運動メニューを考案する事が出来る。</p> <p>また印西市内年長思い出プロジェクト（無償事業）にて674名（R3～R7年）に運動指導を行い、現在5園の私立保育園のカリキュラムとして導入している実績がある。</p> <p>幼少期から医療用バランスボールを使用した運動を取り入れることによって体幹強化につながり、体力・運動機能の向上につながる。</p> <p>この事業を継続していくことで、子供達に楽しく運動をする機会を提供し、それによってデータいんざいの数値低下への貢献につながると考えている。</p>
継続実施により得られる効果 （自由提案型は今後の展望も記入）	<p>医療用バランスボールを使用した運動継続と日常に取り入れやすい体操を継続する事で未来を担う子供達の体力促進・体幹強化・姿勢改善へつながる。また、バランスボールでのリズム運動は脳への発育・集中力向上・意欲向上・社会性・協調性などを期待する事ができる。</p> <p>運動をする事の楽しさ・大切さ・身体の仕組み（姿勢・免疫・成長ホルモン）深く学ぶ事ができる。</p> <p>継続実施する事で子供達が元気で心豊かに過ごす事ができる。</p> <p>今後は業務委託として園児の支援を継続していきたい。</p>

(提案書 様式② 最終審査)

協働事業計画書			
事業名	年中、年長カラダづくりプロジェクト		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・園児達の体幹強化、姿勢改善、体力向上、脳への発育や集中力向上、意欲向上、免疫力向上、運動の楽しさや大切さを伝える ・姿勢や身体の構造の学びを取り入れ自分自身の身体を意識できるように伝える 		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 子供達の未来を育み誰もが心に豊かさをもたらすまちづくり (部署名) 健康子ども部保育幼稚園課		
事業期間	令和 8 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 3 1 日		
事業の内容 <small>詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)</small>	提案者	市	
	公立保育園 5 園での指導実施 指導プログラム作成、変更、修正 実施後ミーティング 練習会実施	関係園との調整、仲介 園児の安全管理、誘導	
事業に要する 経 費 <small>※詳細については、様式③による</small>	409,866円	811,648円	
事業の運営体制 <small>(事業関係者、協力者、有資格者など)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ベジガールズメンバー 6 名 日本Gボール協会認定講師、 (一社) 体力メンテナンス協会発行のバランスボールインストラクター、 体力指導士、保育士、幼稚園教諭、理学療法士 在籍。 ・1園につきベジガールズメンバー 3 名で指導 		
協働のメリット <small>(各立場にとっての効果を簡潔に)</small>	提案者	市民	市
	子供の未来＝地域の未来 子供の可能性を伸ばす 事により地域の未来を支える	子供たちが園での運動 習慣や学びを深める事 のより、先生方や保護 者の方への健康への循環 が期待できる	専門的知識を持つ団体 と連携する事で、 未来を担う子供達のカ ラダとココロに豊かさ をもたらすことができ る
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・市との対話方法 メール、電話、対面 4 月 園長会議出席 2～3 月頃 最終報告 		

	<p>・実施園との対話方法 電話、メール（各園毎に入園時間の確認やアンケート等の送信）</p>
事業の周知方法	周知方法
<p>評価の方法 (具体的な目標値)</p>	<p>目標値</p> <p>実施回数 5園×6回</p> <p>カラダの仕組みについて学びを深めることで子供達自身が自らカラダを知る事、運動の大切さを理解する事へのきっかけづくりをする。</p> <p>公立保育園の年間計画に基づき運動機能の1つの手段として子供達が楽しみながら体幹、手足の動き、新しい刺激、意欲向上、チャレンジ精神を育む。</p>
備 考	関係団体等・
	その他（添付書類等）

(提案書 様式③ 最終審査)

企画提案型協働事業経費内訳書

無償分を含む総事業費 (金 1,221,514 円)

うち市に負担を求める額 (委託
費) 金 811,648 円

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		¥811,648
提案者が負担する額		
その他収入		
無償分を含めない合計額		¥811,648
無償労働力等換算金額		(¥409,866)
無償分を含む総事業費		(¥1,221,514)

【歳出】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
①人件費	講師料 (年長児) 1回¥20,000×5園×6回=¥600,000 (年中児) 1回¥10,000×5園=¥50,000	¥650,000
	プログラム	¥60,000
	練習会(5,6,8,9,10,12月) ¥1,076×2h×4人×6回	¥51,648
②消耗品・備品	印刷、資料	¥5,000
③交通費	・1回¥500×3人×6回×5園	¥45,000
無償分を含めない合計額		¥811,648
提案者が負担する 無償労働力(A)	・団体内反省会 1回¥1,076×5人×6回×5園=¥161,400 ・市との打ち合わせ 1回¥1,076×2人×5回=¥10,760	(¥172,160)
提案者が負担する 無償機材等(B)	ボール(55cm) ¥6,138×5個=¥30,690 ※ギムニク正規販売代理 (45cm)×20個=¥90,350 ※R5年度購入分 (30cm)×20個=¥60,530 ※R5年度購入分 スピーカー(JBL) ¥17,600 手動ポンプ ¥1,600×2本=¥3,200 電動ポンプ ¥7,618×2台=¥15,236 オンライン(ZOOM)年会費 ¥20,100	(¥237,706)
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	(¥409,866)

無償分を含む総事業費	(¥1, 221, 514)
------------	----------------

(提案書 様式④ 最終審査)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4月上旬	・市との打ち合わせ、契約 ・園長会議出席 スケジュール確認、打ち合わせ	2名 2名
5月	・指導プログラム 作成、完成 ・練習会	
6月	・指導開始（毎指導後に団体内ミーティング実施） 1回目指導実施 練習会	3名
7月	・2回目実施	3名
8月	・練習会	
9月	・3回目実施 練習会	3名
10月	・4回目実施 練習会	3名
11月	・5回目実施	3名
12月	・練習会	
1月	・6回目実施（年中児向けレッスンあり）	3名
2月	・指導実施データまとめ、市への報告	

対象者：I市の公立保育園5園の年長児(6~7才)全78名。

方法：

直径45cmのボールを用いて45分間のエクササイズを実施。エクササイズの内容はウォーミングアップ、有酸素運動、無酸素運動、リラクゼーション。

変化の測定方法は①姿勢、②片足立ち、③足指じゃんけんを同一検者にて実施。

①姿勢は後方からの直立姿勢、②片足立ちは被検者が選んだ軸足で、運動前、運動後と2回測定。上限を120秒⁴として、開眼と閉眼の2パターンを測定。両足裸足で、視線は前方2m先を注視するように指示し、両上肢は出来る限り体側に付けるように促す。評価基準はデンバー式発達スクリーニング検査を参考に実施。③足指じゃんけんは裸足で左右同時に、日本学校保健会が示す図説を参考に、基節骨でのグー、親指伸展・他4指屈曲のチョキ、全指開排のパーの3種類を実施。

結果：

図1は姿勢の変化を示した。

表1は片足立ちの平均値を、表2はできた人数/全体人数の%を示した。

T検定実施(p値 < 0.05 (5%未満) で運動前と後の有意差あり。0.01以下でかなりの有意差あり)。図2は運動前の片足立ち(開眼)の時間を、図3は同様に運動後を示した

図1 姿勢の変化(令和6年6月→令和7年1月)



全体的な変化として、背筋が伸びている子が多く(胸腰椎の伸展・エロンゲーションの出現)、踵骨の向きがバラバラだったものが左右対等にまっすぐ整ってきている。

表 1 各園の平均値 片足立ち(秒) 上限 120 秒

保育園	運動前(開眼)	運動後(開眼)	T 検定	運動前(閉眼)	運動後(閉眼)	T 検定
A	25.36	31.60	0.30	6.64	6.18	0.37
B	32.70	64.15	0.003	6.60	10.35	0.05
C	19.95	43.80	0.007	4.75	8.70	0.01
D	31.71	63.9	0.06	11.28	8.4	0.27
E	18.3	53.5	0.002	4.1	9.7	0.008

図 2 運動前の片足立ち(開眼)

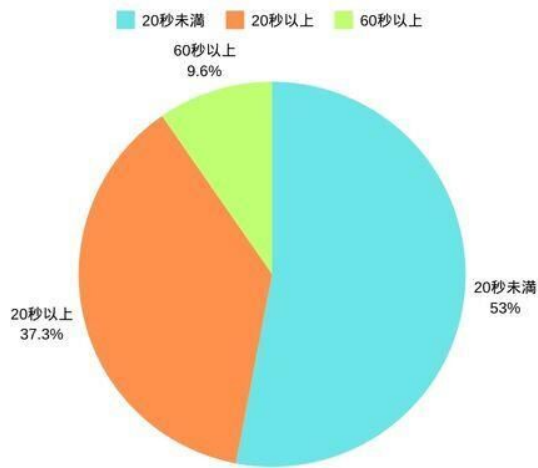


図 3 運動後の片足立ち(開眼)

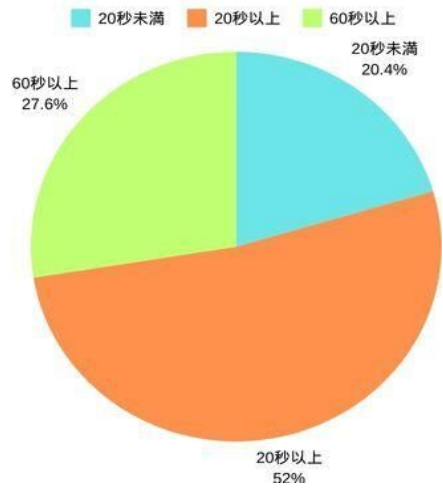


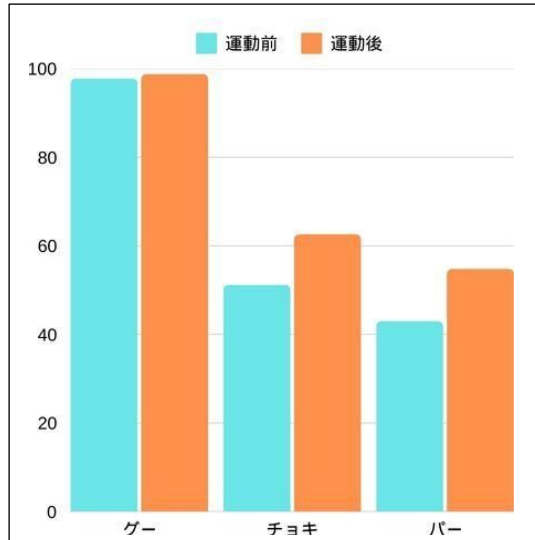
表 2 各園の足指じゃんけん可能な数値 (%)

保育園	運動前グー	運動後グー	運動前チョキ	運動後チョキ	運動前パー	運動後パー
A	100	100	55	63	55	55
B	100	100	45	55	35	40
C	100	100	40	63	40	75
D	100	100	88	67	63	33
E	89	94	28	65	22	71

表 2、図 4 では足指じゃんけんの運動前後の可能だった数値を表している。運動後が優位に足指じゃんけんが可能となっており、特にチョキとパーの変化は大きい。

図 4


運動前と運動後の足指じゃんけんの変化



参考文献

1. 厚東芳樹、栗田七奈美：幼児の体力・運動能力に関する現状と課題 人間生活文化研究 No.30、825-835、2020
2. 平工志穂：Gボール運動の主観的評価と体力レベルの関係について-ほかの運動・スポーツ種目との比較から、大学体育学 12、043-047、2015
3. 加辺憲人：足趾の機能 理学療法科学 18(1)、41-48、2003
4. 久保温子 他：幼児期における開眼片足立ち測定の妥当性 Japanese journal of Health promotion and Physical Therapy vol4.No.2、71-81、2014
5. 公益財団法人 日本学校保健会：子供の足の健康のしおり

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)

		協働の機会提案書(継続提案用)		2025 年 8 月 18 日	
(あて先) 印西市長様		(登録者) 登録番号 01 — 001			
		名称 NPO 法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア			
		所在地 印西市瀬戸			
		代表者 福田 潔子			
		連絡先			
		E-mail kiyoko.fukuda@heartful-com.org			
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。					
<input checked="" type="checkbox"/> 自由提案型 <input type="checkbox"/> 指定テーマ型					
提案事業名		虐待予防事業『子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング』			
現状・課題 (前年度の実施を踏まえた課題)		核家族化が進み、人間関係の希薄化による「家庭教育力」の低下が懸念されていることは、「第二期印西市子ども・子育て支援事業計画」でも課題として提示されている。コロナ禍における社会の変化のスピードは著しく、SNS 等での情報があふれ、必要な情報を選び取ることが難しい中で、子どもを産み育てることへの不安が広がっている。また、2020 年 4 月より、子どもへの体罰が禁止となり「しつけ」に関心を寄せる親が多い一方で、どのようにしつけていいのかわからないという悩みも多く、家庭内での問題が表面化せず、しつけの名の下に行われる虐待などの痛ましい事件が繰り返されている。			
提案理由		子どもの健全な育成のためには、乳幼児期において、親子の信頼関係を構築することが欠かせない。しかし、その大切な時期に子育てのやり方がわからずに、子育てにストレスを感じ、「体罰」や「ネグレクト」といった虐待につながりかねない事態が起きている。さらに、そのまま学童期を経て思春期を迎えることで、さらに問題が深刻化する傾向にある。そこで、虐待予防の観点からも、乳幼児～思春期までの親を対象に切れ目なく、体罰ではなく「対話による子育て」を学ぶ機会を作ることが急務である。			
提案内容 (予算の概算は提案書様式①-4)		(前年度の実施を踏まえた改善内容) 上記の課題解決のためには、継続的に学ぶ機会を継続する必要がある。 今年度は、学童期から思春期に親向け連続講座を実施する。 ① 学童期～思春期(3 歳～中学生)の親向けワークショップ 4 回連続講座 ② 乳幼児期の親向けハートフルセッション 6 回連続講座			

<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 当団体では、「子どもの幸せな自立」をテーマに、親の家庭教育力の向上を図るため 2006 年の NPO 設立当初より、教育委員会、地方自治体などからの依頼を受けて講座を実施。実績が豊富である。 ② 「コーチング」を取り入れたプログラムはわかりやすく、日常生活ですぐに試せるものが多く、学びの効果を実感しやすい。 ③ 当プログラムでは、参加者同士が生産的に関わり、成果を作り上げる場面で使われるコミュニケーションスキルである「ファシリテーション」を用いるため、交流会や情報交換会とは違い、参加者が安心して自己開示ができる場づくりをすることで、深い気づきや発見を促すことができる。 ④ 乳幼児期から思春期まで、子どもの発達段階に合わせたコンテンツも豊富なため、担当課が対象とする子どもの年齢（0 歳～18 歳）と合致し、子育て中の親の切れ目のない支援が実現できる。 ⑤ ニーズに合わせて、オンライン・対面両方での実施が可能。 講師として、当法人代表理事である菅原裕子をはじめ、訓練を積んだ経験豊富なコーチが多数在籍している。
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「体罰によらない」子育てを学ぶ場があることで、親の育児不安の解消ができ、子育てへの自信を得られる。虐待の発生予防につながる。 ② 連続講座参加により、親同士のつながりが期待でき、孤立化を防げる。 ③ 行政との協働事業による持続・継続性のある講座展開を図ることで、今後、乳幼児から思春期までの切れ目のない支援の実現が期待できる。 <p>【今後の展望】</p> <p>継続した講座展開ができれば、親の自主性・課題解決力が向上することにより、子育て世代の地域活動への積極的参加が期待できる。なぜならば、当法人のプログラムは「教え込む」のではなく、寄り添い、問いかけていくコーチングの手法を取り入れているので、参加者に「深い気づき」を与え、親の「考える力」を引き出すことが出来るからである。</p> <p>また、親がこのプログラムの恩恵を受けて、成長し、一人の大人として自立することができれば、自身が体験したプロセスを後進に伝えていこうという意欲につながり、継続して学び合う循環を生み出すことが出来る。</p> <p>さらに、その学びを生かせる場を行政と共に作り出すことで、子育て・親育てを健全に進める環境づくり、地域づくりにつなげていくことが可能であると考え。そのために、初年度は乳幼児期の親の学びの場を作ることから始め、5 年後、10 年後の未来を創る人材を育てていくことを視野に入れた多角的で、継続的な事業を今後も提案していきたい。</p>

協働事業計画書			
事業名	虐待予防事業『子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング』		
事業の目的	育児不安を解消し、虐待を予防する。「体罰によらない子育て」の方法として、子育てにコーチングを取り入れた講座を実施する。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 子育て支援の充実、虐待の予防 (部署名) 子ども家庭課 児童相談係		
事業期間	令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日		
事業の内容	提案者	市	
詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	○講座プログラムの作成 ○講座の告知チラシ作成 ○参加者の募集協力 ○講座・アンケートの実施	○市公共施設での講座の主催 ○講座の告知 ○参加者の募集・管理 ○関係機関との調整・仲介	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	0 円	408,880 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	経験豊富な内部講師により、地域に合ったプログラムを作成・実施する		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	・行政との協働を通して、乳幼児期～思春期までの継続的な学びの場を提供できる。 ・団体の持っている講座開催のノウハウの活用	・体罰に寄らない子育ての方法を獲得する ・参加者同士および地域との繋がりを作る。 ・不安で孤独な子育てから、笑顔で仲間と楽しく取り組む安心の子育てへ。	・虐待の予防・啓発活動の拡充 ・顕在化しない家庭内での問題の掘り起こし。 ・講座運営の負担軽減
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	年間計画、プログラム内容は令和 7 年度の結果を踏まえ対面・メール・電話にて協議。随時情報交換を行う。必要に応じて対面で協議。		
事業の周知方法	市広報・HP 等で募集記事を掲載。子育て支援拠点・幼稚園・保育園向けチラシ配布。ネットによる小中学校の保護者向けお知らせ通知。		
評価の方法 (具体的な目標値)	参加人数および、アンケートの記述による満足度 目標値 参加人数の目標値は、募集人数の 6 割とする。		
備考	関係団体等・なし		
	その他 (添付書類等)		

(提案書 様式③ 最終審査)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 562,480 円

市から団体への委託費 （金 408,880 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費・旅費交通費・チラシ作成印刷費・ 報告書作成印刷費等・アンケート作成集計費	408,880
その他収入		0
提案者負担分		0
無償労働力等換算金額	労働力	(153,600)
合 計（無償分を含めない）		408,880
無償分を含めた合計額		(562,480)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費 プログラム作成・実施	① 学童期～思春期の親向け連続講座 プログラム作成および実施 4回×33,000=132,000 アシスタント 4回×5,500=22,000 ② 乳幼児期の親向け連続講座 プログラム作成および実施 6回×11,000=66,000 アシスタント 6回×5,500=33,000	154,000 99,000
会場設営・撤収	1,200 円/h×2 時間×2 人×10 回=48,000	48,000
旅費	① 交通費 4回×2,200/回×2 人=17,600 ② 交通費 6回×2,200/回×2 人=26,400	 44,000
チラシ作成費	チラシデザイン作成費1講座 5,500 円×2 件=11,000	11,000
チラシ印刷費	1,300 部×2 件 4,960 円×2=9,920	9,920
報告書等印刷費	用紙及びインク代 2,160	2,160
アンケート作成・集計	1,200 円/h×34 時間=40,800	40,800
提案者が負担する 無償労働力	1,200 円×128 時間=153,600 ※千葉県最低賃金をもとに算出(準備・打合せ・広報協力報告)	(153,600)
提案者が負担する無償機材等	なし	(0)
合 計（無償分を含めない）		408,880
無償分を含めた合計額		562,480

(提案書 様式④ 最終審査) 年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容			参加人数
4月中旬	市との打合せ、契約			2名
4月下旬	年間計画、全体講座プログラム内容、告知方法時期の検討			2名
4月～5月初旬	講座詳細打ち合わせ1～2回	① 乳幼児期講座 日程調整 会場の検討	② 学童期・思春期向け期講座 日程調整 会場の検討	2名 2名
5月中旬	広報関係打ち合わせ			2名
6月	広報掲載事項 確定 チラシ案決定			<u>2名</u>
7月	チラシ印刷 配布	集客協力	集客協力	10名
8月	参加者募集 受付スタート アンケート検討	8月広報掲載 受付スタート アンケート作成	集客協力	10名 <u>1名</u>
9月		① 講座実施 1回目		<u>2名</u> <u>2名</u>
10月		2回目 3回目 4回目		<u>2名</u> <u>2名</u> <u>2名</u>
11月		5回目 6回目	12月広報掲載 受付スタート	<u>2名</u> <u>2名</u>
12月		アンケート実施 アンケート集計	アンケート作成	<u>2名</u> <u>2名</u>
1月			1回目 2回目	<u>2名</u> <u>2名</u> <u>1名</u>
2月	結果まとめ		<u>3回目</u> <u>4回目</u> <u>アンケート実施</u> <u>アンケート集計</u>	2名
3月	報告書作成			2名

細字：無償労働人数

太字：事業実施人数

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)



(あて先) 印西市長

協働の機会提案書(継続提案用)

令和7年 9月1日

(登録者) 登録番号 05 —002

名 称 NPO 法人亀成川を愛する会

所在地 印西市木刈

代表者 小山 尚子

連絡先

E-mail kamenarilove@yahoo.co.jp

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

☒自由提案型 ☐指定テーマ型

提案事業名	市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	<p>令和6年度事業により実施した、調査、専門家による助言、先進地見学の結果、及びそれらを踏まえた令和7年度の事業の結果、以下の課題が明確となった。</p> <p>① 生きものの生息・生育環境が、かなり劣化してきているものの、まだかろうじてホタルなどの希少種が生息しており、環境の維持・回復を図る必要がある。</p> <p>② 市民が安全、安心に保全活動に参加できるような観察路や作業道とする必要がある。</p> <p>③ 市民が保全活動に楽しく参加できるイベントの実施により、保全参加市民を集める。</p>
提案理由	<p>里山に残る自然と都市機能の調和を目指す印西市においては、農業の衰退や台地の開発に伴い、里山、とりわけ谷津の自然環境や生物多様性の劣化が進んでいる。</p> <p>同じような状況にある、印西市所有の都市緑地において、劣化した谷津を復活させ、市民が楽しく安全に保全活動に参加できる環境を整備し、市民の手でその環境を維持保全していく体制を整える。それにより、印西市に残る多くの谷津の生態系や農業の維持のモデルとする。</p> <p>最終年度は、令和6年度及び令和7年度の調査及び専門家の助言、保全体験型イベントの結果を踏まえ、市民が参加しやすい環境を整備する。</p>

<p>提案内容 (予算の概算は提案書様式①－４)</p>	<p>(過年度の実施を踏まえた改善内容)</p> <p>２年間の調査及び専門家の助言等により、当該地域がかなり劣化しており、ホタルやトンボなど、谷津の生きものの生息・生育環境としては不十分であるが、まだかろうじて希少種が生息しているということがわかった。</p> <p>したがって、かつての谷津の環境復活のための保全活動に一層力を入れるとともに、市民の保全意欲を喚起するような事業を実施するとともに、市民が安全・安心に保全活動に参加できる環境整備を図る必要がある。</p> <p>① 湿地環境を回復、維持するための草刈りと水路掘り。</p> <p>② 湿地を陸地化させないためのセイタカアワダチソウやオオブタクサの除伐</p> <p>③ 倒木処理</p> <p>④ 水生生物を駆逐する外来生物の駆除</p> <p>⑤ 市民が安全にイベント及び保全に参加するための観察路と作業道の整備</p> <p>⑥ 市民が楽しく保全に参加できる機運を醸成するための保全体験型イベントの実施。「自然と遊ぼう」シリーズ</p> <p>○花の観察会とセイタカアワダチソウ引っこ抜き競争</p> <p>○トンボ観察会とセイタカアワダチソウ引っこ抜き競争</p> <p>○アメリカザリガニ捌いとギル釣り</p> <p>○ヨシで作る秘密基地</p> <p>○カブトムシのゆりかごづくり</p> <p>⑦ O E C M (Other Effective area-based Conservation Measures) 認定に向けた自然調査、環境保全に伴う整備をし、自然共生サイトへの登録申請をする。</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット</p>	<p>当会では、2015 年以来、当該緑地において、トンボやホタルなどの谷津の生きものを増やそうと試行錯誤をしているが、必ずしも成果が出ているとは言えない。</p> <p>しかしながら当団体は、当該緑地の実態を熟知しているだけでなく、先進地の試みや専門家の助言を謙虚に受け入れて、谷津の豊かな生態系を取り戻し復活させる意欲に満ちている。</p> <p>また、日本トンボ学会会長などトンボの専門家や NPO 富里のホタルなど、ホタルに詳しい団体などとのよい協力関係がある。</p> <p>劣化しつつある印西市の谷津の生態系を市民の手で守り、維持管理して</p>

	いく契機となる。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	<p>① 生きものの生息・生育環境と安全な活動ができる環境を整えることにより、市民の手で谷津の生態系を復活できることを市民に体験してもらうことができる。</p> <p>② 印西市には、まだホタルの生息する谷津が複数存在するが、その谷津は耕作放棄により、手入れがなされないまま、存亡の危機にある。それらの谷津は、私有地であるため、ここと同じようにはいかないが、それでも美しい谷津の景観を取り戻すことにより、市民の手で谷津を守るモデルとなる。</p>

協働事業計画書		
事業名	市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系	
事業の目的	<p>① 別所谷津公園の谷津（別所緑地）において、まだわずかに残っている、ゲンジボタルとヘイケボタル及びトンボなどそのほかの水辺の生きものの生息環境を整備し、復活させることによって、印西市で劣化が進んでいる谷津の生態系を市民で守る活動の契機とする。</p> <p>② 緑地に設置されているデッキからの風景を美しい谷津に整えることによって、市民の関心を得る。</p> <p>③ 市民が安全、安心に活動や観察会に参加できる観察路や木道などの整備に努める。</p> <p>④ OECM認定に向けた自然調査、環境保全に伴う整備をし、自然共生サイトへの登録申請をする。</p>	
市の施策上の位置付け及び協働部署	<p>（施策名）</p> <p>①印西市総合計画</p> <p>②第3次印西市環境基本計画</p> <p>③印西市緑の基本計画</p> <p>＊別所緑地については、緑の基本計画第2章3緑の配置方針において、緑の活動拠点として、位置づけられている。</p> <p>（部署名）都市整備課、環境保全課</p>	
事業期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
事業の内容 詳細に役割分担別に 記入 （役割分担を、できれば事前に市の 担当に相談して記 すか、希望を記 す）	提案者	市
	<p>① 前年度に策定した緑地整備計画に基づき、草刈り、手作業による田んぼ型湿地回復のための池掘りと作業道作りなどの保全作業の実施</p> <p>② OECM 登録（共生サイト登録）のための調査の実施</p> <p>③ 市民も参加できる保全体験型イベント（自然と遊ぶ）の企画と実施</p> <p>④ まちづくりファンドによる木道、観察道の設置、水路及び入</p>	<p>① まちづくりファンド申請のための助言</p> <p>② 自然共生サイト登録申請のための助言と協力</p> <p>③ 湿地回復についての助言</p> <p>④ 関係機関等との調整・仲介</p> <p>⑤ 市民への周知と参加者の募集協力（保全体験型イベントのスクリーン配信とホームページ掲載）</p> <p>⑥ カシノナガキクイムシによる被害木の伐採</p>

	ロフェンス整備のための準備	
事業に要する 経 費 ※詳細については、様式③による	402,000 円	1,210,434 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	谷津のホタル復活に有効な実践経験のある NPO 富里ホタルや、日本トンボ学会会長の率いる神奈川トンボ調査・保全ネットワークの協力により、水辺の生きものの生息環境を、当地の谷津の環境に併せて、復活、整備することができる。	
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市 民
	市	
	<p>① 都市地域から里山地域へのアプローチとなるよう勧めてきた別所谷津公園の水辺の取り組み(谷津に親しむ公園作り)が、市民を取り込んだ活動を推進できる。</p> <p>② 別所緑地に設置されているデッキから、美しい谷津の風景が望めるように整備することによって、印西の自然と保全の必要性をアピールできる。</p>	<p>・自然と都市機能が共生するまちづくりの実践を経験でき、将来にホタル飛ぶ里山の原風景を住居近隣に残す契機となる。</p> <p>① 印西市環境基本計画及び印西市緑の基本計画の実装実験となり、自然と共生するまちづくりへ市民と協力して実施する契機となる。</p> <p>② 自然共生サイト登録申請が受理されることによって、市の環境施策の実装となる。</p> <p>③ 別所緑地に設置されているデッキを有効活用できる。</p>
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	作業計画、イベントについては、随時打ち合わせ会を実施し、相談する。	
事業の周知方法	周知方法 いんざい広報、ちらし、スクリレ配信、地域新聞、会の SNS 広報など。	
<div>評価の方法</div> <div>(具体的な目標値)</div>	<div>目標値</div> <p>① ホタルやトンボなどの生きものの生息・生育環境を守るため、湿地回復・維持及び作業道整備事業として、述べ 150 名が参加して、草刈り、外来種駆除、倒木処理、樹木伐採及び水路掘りなどを実施する。</p>	

	<p>② 市民参加による保全の土台作りのために、50 名以上の一般市民が参加して保全体験型イベント「自然と遊ぶ」に参加する。(募集人数の 8 割)</p> <p>③ O E C M認定に向け、自然共生サイトに登録申請をする。</p>
備 考	<p>谷津のホタル復活に有効な実践経験のある NPO 富里のホタルや、日本トンボ学会会長の率いる神奈川トンボ調査・保全ネットワークの協力により、水辺の生きものの生息環境を復活、整備することができる。</p>
	<p>その他</p>

(提案書 様式③ 最終審査)

企画提案型協働事業経費内訳書

無償分を含む総事業費 (金 1,729,434 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 1,210,434 円

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		1,210,434
提案者が負担する額		402,000
その他収入	助成金	117,000
無償分を含めない合計額		1,327,434
無償労働力等換算金額	企画・事務・イベント実施費用相当	(402,000)
無償分を含む総事業費		1,729,434

【歳出】

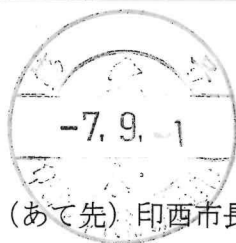
項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	ホタル調査 (夜間) 1,140 円×2 時間×4 人×4 回 =36,480 円 草刈り・田んぼ掘り・外来種駆除・調査 1140 円×3 時間×150 人 =513,000 円 ちらし作成費 20,000 円×3 回=60,000 円	609,480
報償費① スケジュールに載 せる。	木道・田んぼ型湿地回復検討助言者謝礼 (トンボ) 30,000 円 昆虫調査 30,000 円×2 回=60,000 円 植物調査 20,000 円×4 回=80,000 円	170,000
報償費② (助成金に より支出)	講師謝礼 (自然と遊ぼうシリーズ) ・花の観察会講師謝礼 20,000 円 ・トンボ観察会講師謝礼 20,000 円 ・ギル釣り指導者謝礼 30,000 円 (6 人) ・ヨシ小屋作り講師謝礼 20,000 円 交通費 ・花の観察会講師謝礼 3,000 円 ・トンボ観察会講師謝礼 3,000 円	117,000

	<ul style="list-style-type: none"> ・ギル釣り指導者謝礼 3,000 円×6 人=18,000 ・ヨシ小屋作り講師謝礼 3,000 円 	
旅費	木道・田んぼ型湿地回復検討助言者旅費 (トンボ) 片道 5,632 円×往復=11,264 円 昆虫・植物調査講師旅費 3,000 円×6 回=18,000 円	29,264
印刷製本費	ちらし各戸配布用印刷 近隣居住者 2 回	30,000
保険料	195,190 円	195,190
使用料	軽トラック 500 円×10 回=5,000 円 ハンマーナイフ (自走式草刈り機) レンタル料 40,000 円×2 回=80,000 円 伐採枝粉碎機レンタル料 25,000 円×2 回=50,000 円	135,000
消耗品費	ガソリン代 (混合ガソリン用、レンタル機材用 170 円×10ℓ×15 回=25,500 円 刈払い機の替え刃 800 円×10 枚=8,000 円 ノコギリ替え刃 800 円×10 枚=8,000 円	41,500
無償分を含めない 合計額		1,327,434
提案者が負担する 無償労働力 (A)	1,140 円 × 3 時間 × 延べ 100 人 = 円=342,000	(342,000)
提案者が負担する 無償機材等 (B)	刈払い機 1,000 円×5 台×10 日=50,000 円 トリマー 1,000 円×10 日=10,000 円	(60,000)
無償労働力等換算 金額	(A) + (B)	(402,000)
無償分を含む総事 業費		1,729,434

(提案書 様式④ 最終審査)

年 間 事 業 ス ケ ジ ュ ー ル

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4月～3月	・市との打ち合わせ	
4月	・協定・契約締結	
4月～3月	・外来魚、外来種駆除（月2回程度）	24
	・ホタル及びトンボ飛翔場所確保、湿地回復、景観維持、水生生物生育環境維持のための草刈り、樹木伐採（月2～3回）	102
5月	・会員による昆虫及び植物調査（月2回程度）	24
	・「自然と遊ぼう」春の花の観察会とセイタカアワダチソ引っこ抜き競争	20
	・専門家によるトンボ生息環境調査と助言	6
	・ゲンジボタル調査 2回	8
6月	・専門家による昆虫調査指導	4
	・「自然と遊ぼう」アメリカザリガニ掬いとギル釣り	15
	・「自然と遊ぼう」トンボ観察会とトセイタカアワダチソ引っこ抜き競争	20
7月	・ヘイケボタル調査 2回	8
10月	・専門家による昆虫調査指導	4
11月	・「自然と遊ぼう」ヨシで作り秘密基地	10
12月	・市への中間報告	
1月	・「自然と遊ぼう」カブトムシのゆりかごづくり	20
2月	・共生サイト登録申請	



協働の機会提案書(継続提案用)

令和7年~~6~~⁹月~~19~~¹日

(あて先) 印西市長 藤代 健吾 様

(登録者) 登録番号 20-001
 名称 特定非営利活動法人エコネットちば
 所在地 印西市竹袋~~XXXXXXXXXX~~
 代表者 理事長 齊藤 敏男
 連絡先 ~~XXXXXXXXXX~~
 E-mail econetchiba@outlook.jp

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<input type="checkbox"/> 自由提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 指定テーマ型	
提案事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
提案理由	繰り返し訪れる人の多い竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ野鳥も飛来する自然豊かな憩いの場所です。印西市の花の名所として市民はもとより隣接する地域の人々にも足を運んでいただけている場所です。この景観と環境を保つためには継続した維持管理が必要だと考えたため。
提案内容 (予算の概算は提案 書様式①-4)	(前年度の実施を踏まえた改善内容) 遊歩道沿いに花を植え、緑地の草刈、植栽の管理、ごみ清掃などを行い、癒しの景観と快適な環境を維持します。 1.花畑の整備・維持 2.緑地の定期的な草刈 3.随時のごみ清掃 4.放流口のごみ除去 (概算予算: 3,294,320円)
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	私たち「エコネットちば」は、市内の環境整備等により地域の活性化及びまちづくりに寄与することを目的としたNPO法人です。構成員が地元住民であることも活かしながら地域住民等とも協力した定例の活動、また市の花:コスモスが咲く時期には「コスモスふれあいまつり」の主催開催、コスモスの刈り取り機会の提供等も実施して参りました。継続した本事業の経験があり、地元住民の視点と協力をもって、より良い癒しの場の提供に努めることができると考えます。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	平成21年から続く協働事業であり、継続した維持管理に取り組むことでこの地域の景観と環境をより良いものへと向上させることが出来ております。定例の活動により景観と環境が保たれ、植える花の工夫や「コスモスふれあいまつり」の主催開催等によって地域の魅力として発信する機会を持ちながら、地域住民に愛され利用されるコミュニティの場としての定着、散歩をしながらまちへの愛着を自然に覚えることができるような効果もより一層得られるものと見込まれます。

協働事業計画書			
事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業		
事業の目的	竹袋調整池と周辺地域は自然豊かで景観に恵まれ市民の憩いの場となっています。この環境を保全するため年間を通じた維持管理を行います。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 緑あふれる居住環境の実現 (部署名) 都市整備課		
事業期間	令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日		
事業の内容 <small>詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)</small>	提案者	市	
	<input type="checkbox"/> 定期的な草刈り <input type="checkbox"/> 花畑の整備 <input type="checkbox"/> 植栽の管理 <input type="checkbox"/> 日常随時のごみ清掃 <input type="checkbox"/> 放流口のごみ除去	<input type="checkbox"/> 維持管理の相談・協議 <input type="checkbox"/> 植栽管理の指導・助言 <input type="checkbox"/> 花(コスモス)の種の提供	
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	45,500円		3,294,320円
事業の運営体制 <small>(事業関係者、協力者、有資格者など)</small>	農機具操作・造園作業に精通した会員を指導員として、会員15名とボランティアの協力体制で維持管理します。		
協働のメリット <small>(各立場にとっての効果を簡潔に)</small>	提案者	市民	市
	竹袋調整池周辺地域の維持管理で環境保全ができ、市民に憩いの場を提供、ふれあいのまちづくりへ展開できます。	年間を通して憩い・癒し・健康増進の場として利用でき、地域住民と交流の機会が広がります。	市民に愛される魅力ある地域拠点ができ、環境美化が図られ、市民サービス、地域の魅力が図れます。
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	定期的に計画事業の活動報告を行うとともに、随時・異常気象時の巡回・報告・協議・処置で安全確保と環境保全に努めます。		
事業の周知方法	周知方法 花畑の開花情報を市広報誌・HP、地域ケーブルテレビ・地域ミニコミ誌等への情報提供、現地掲示板による案内。		
評価の方法 <small>(具体的な目標値)</small>	目標値 様々な花の開花期間(日数)、コスモス(花畑開放・刈取りOK期間)・芝桜(観賞と写真撮影期間)の概ね来場者数、あわせて感想・ご意見を聴取する。		
備考	関係団体等・地域町内会、小中学校、幼稚園、市民活動団体、高齢者施設 その他(添付書類等) 竹袋調整池作業図、年間事業スケジュール、業務計画書		

(提案書 様式③ 最終審査)

企画提案型協働事業経費内訳書

無償分を含む総事業費 (金 4, 036, 540 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 金 3, 294, 320 円

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		3, 294, 320
提案者が負担する額	歳出項目のうち、案内看板・掲示板等一式および衛生管理費	45, 500
その他収入		0
無償分を含めない合計額		3, 339, 820
無償労働力等換算金額	労働力 522,720 円、 機材 174,000 円	(696, 720)
無償分を含む総事業費		(4, 036, 540)

【歳出】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
作業費	草刈(機械) 面積 10,000 m ² 7 回×169,560 円/回	1, 186, 920
	耕運(花畑) 面積 3,700 m ² 6 回×70,200 円/回	421, 200
	施肥(花畑) 面積 3,700 m ² 6 回×86,400 円/回	518, 400
	消毒(花畑) 面積 3,700 m ² 3 回×48,600 円/回	145, 800
	植栽管理(桜37 本、サツキ 130 m ²) 200,000 円/年	200, 000
	苗植(花畑) 面積 2,200 m ² 2 回×162,000 円/回	324, 000
	種蒔(花畑) 面積 2,200 m ² 2 回×54,000 円/回	108, 000
	除草(花畑) 面積 500 m ² 6 回×27,000 円/回	162, 000
賃借料	仮設トイレレンタル 1棟 4,000 円/月 × 12 か月	48, 000
保険料	損害保険 180,000 円	180, 000
案内看板・掲示板等一式	※提案者負担	40, 000
衛生管理費	仮設トイレし尿汲み取り 5,500 円/回 ※提案者負担	5, 500
無償分を含めない合計額		3, 339, 820
提案者が負担する 無償労働力(A)	1,080 円×484 時間=522,720 円 (施肥 20h、苗植 30h、種蒔き 20h、散水 20h、花畑除草 70h、植栽管理 8h、樹木消毒 12h、放水口清掃 28h、側溝泥揚げ 12h、ゴミ拾い 24h、 イベント対応 240h)	(522, 720)
提案者が負担する 無償機材等(B)	草刈機(肩掛) 3,000 円/回×6 台×7 日=126,000 円、 管理機(除草) 4,000 円/回×2 台×6 日=48,000 円	(174, 000)
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	(696, 720)
無償分を含む総事業費		(4, 036, 540)

(提案書 様式④ 最終審査)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
		延べ人数
4 月上～中旬	芝桜まつり	24 名
5 月～11 月	草刈り作業(7 回)	70 名
5 月上旬～	耕運(6 回)	18 名
6 月下旬～	施肥(6 回)	18 名
6 月中旬～	苗植え(2 回)	30 名
6 月中旬～	散水(10 回)	10 名
7 月下旬～	種蒔き(2 回)	14 名
7 月下旬～	花畑消毒(3 回)	9 名
7 月下旬～	樹木消毒(2 回)	6 名
5 月上旬～	花畑除草(芝桜他)	49 名
9 月中～10 月上旬	コスモスまつり(花畑開放)	24 名
年間	植栽管理(剪定等)	8 名
年間	周辺環境整備(ごみ拾い)	24 名
年間	放水口のごみ除去(随時)	14 名
年間	仮設トイレ清掃(設置 5 月)	24 名
年間	側溝泥上げ(随時)	6 名
		計 348 名

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)



協働の機会提案書(継続提案用)

令和7年9月3日

(あて先) 印西市長

(登録者) 登録番号 04-007

名 称 みんなのいっぽ

所在地 印西市西の原

代表者 伊藤かおり

連絡先

E-mail kao223517happiness@yahoo.co.jp

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

☐ 自由提案型☒ 指定テーマ型

提案事業名

グリーンカーテン大作戦！
「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」現状・課題
(前年度の実施を踏
まえた課題)

2050年カーボンニュートラルに向けた世界的な動きの中、印西市は昨年ゼロカーボンシティ宣言をした。第三次印西市環境基本計画に基づき市民・事業者・行政が一体となり地球温暖化に向けた取組を推進することが急務となっている。

印西市環境白書によれば印西市民の79.6%が環境問題に関心があると答える一方で「どのような取り組みをすればいいのかわからない」という声が40%。「環境事業を行っていることを知らない」と答えた市民は41%に上っている。このことから環境問題に対する市民の高い意識を活かして、市の環境事業の認知を広め、市民と一体となった環境活動を促進していく必要がある。

令和5年度より印西市との協働事業によるグリーンカーテン大作戦を実施し、様々なカタチで市民にグリーンカーテンを広めると共に、地球温暖化について関心を高めることができた。

原小学校や牧の原小学校では地球温暖化・環境問題の出前講座を行い、のべ300名の子どもたちに市の取り組みを伝えることができた。また、環境フェスタやクールシェアなどを通してグリーンカーテンの効果や地球温暖化について考えるきっかけをつくることができた。

課題としては、市民のグリーンカーテンの苗を育てる技術についてはさらにサポートが必要であることがわかった。基本的な栽培技術や虫や病害に対する知識が足りず、枯らしてしまうケースが散見された。さらに昨今の温暖化により栽培は難しくなっているケースも見られる。植物を栽培することを通して身近な自然の素晴らしさや自然環境とのつながりを感じてもらうためにも、栽培に関するフォローを継続していきたい。また、公共施設でのグリーンカーテン

	<p>設置については、適した施設が少なかったり、管理の困難さが浮き彫りになった。今後は学校での設置サポートに力を入れていくことで、グリーンカーテン大作戦の周知につなげていきたい。</p> <p>昨今の温暖化の影響により、種の配布や種まき、グリーンカーテンの設置時期を早めた方が良いのではないかと考え、今年からスケジュールを前倒しして取り組んでいる。夏の時点である程度苗が成長していた方がグリーンカーテンとしての効果を発揮し、生育にも良いのではないかと検証し、よりよい時期を見定めていきたい。</p>
提案理由	<p>市民アンケートによると 32%の人が「環境事業に取り組む時間がない」と答え、23%の人が「個人で取り組んでも効果がない」と答えている。このことから、環境意識があまり高くない市民にとってもグリーンカーテンの効果を実感すること、楽しんで参加できることがポイントであると言える。</p> <p>提案内容は苗を配布するだけでなく、参加したくなるインセンティブ、栽培へのハードルを下げる栽培技術情報の提供、自然体験イベント・環境問題を楽しく学べる出前授業などを通しての効果や危機感の共有をすることに重点を置いている。</p> <p>参加者が増えることで、グリーンカーテンの設置数も増え、市民の環境意識をグリーンカーテンで見える化することができると考える。参加していない市民にも環境活動を意識してもらおうきっかけにつながると考えている。</p>
提案内容 (予算の概算は提案書様式①－４)	<p>グリーンカーテンの普及啓蒙・参加者を増やすには以下の3つの方法について取り組む必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) より活動を広く周知するための発信方法としてSNSを活用する 2) 環境意識が低い市民の参加を促すため、設置者へのインセンティブになるようなコンテストへの参加特権を設ける 3) 公共施設へのグリーンカーテンの設置及び学校でのグリーンカーテン設置サポート 4) 学校での出前事業 5) 印西市が取り組んでいる環境フェスタなどのイベント、また市民団体の主催するイベントなどに参加して、広く市民に参加機会をPRしていく。
貴団体の特性、協働で実施するメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなのいっぽのメンバーには元小学生教師がおり、出前事業などの実施において学校関係者との調整や当日の授業も経験を活かして実施することができる。 ・ 苗の作成については、農園経営者であるメンバーが技術・経験を活かして取り組むことができる。栽培のポイントや設置のコツなど市民が必要とする正しい栽培情報を SNS で適切に提供することができる。 ・ これまで森のようちえんなど他の市民団体、イオンなどの商業施設とも協力しながら活動してきており、これまでの連携をベースに、苗の配布や普及啓蒙を行っていくことができる。

継続実施により
得られる効果
(自由提案型は今後の
展望も記入)

- ・学校や市民イベントなどを通して、環境意識が高い・低いに関わらず様々な市民に普及啓蒙を行うことで、広く市民の環境意識を高めることができる。
- ・公式ラインやInstagramなどの SNS は、登録者を継続していくことができるので、1 度参加した市民が毎年参加しやすくなるように情報を提供することができる。

(提案書 様式② 最終審査)

協働事業計画書		
事業名	グリーンカーテンでゼロカーボン 「CO ₂ を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」	
事業の目的	地球温暖化に対する市民の意識を高める。	
市の施策上の位置 付け及び協働部署	(施策名) 自然との共生の実現 (部署名) 環境経済部 環境保全課	
事業期間	令和8年 4月 1日 ～ 令和9年 3月 31日	
	提案者	市
	<ul style="list-style-type: none">・グリーンカーテンを使用した地球温暖化防止対策を市民に普及啓発・ゴーヤなどの種を苗に育成、配布・出前講座の実施	<ul style="list-style-type: none">・広報いんざい及びホームページなどによる普及啓発・事業の財源確保・グリーンカーテンを設置する公共施設や出前授業を実施する教育機関との事前調整
事業に要する 経 費 <small>※詳細については、様式③による</small>	0 円	1,496,606 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	みんなのいっぽ <ul style="list-style-type: none">・イベント実施・普及啓蒙2名(元小学校教員、環境教育団体職員)・苗の育成・参加者の栽培フォロー(農業者)・経理1名 ・事務・SNS等の運営1名 【協力団体】 みんなのおにわ(森のようちえん)	

	提案者	市 民	市
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで活動してきた経験を生かして、地域に貢献し地域内のネットワークを広げる。 ・イベントや発信を通じて潜在的な参加者を発掘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく省エネルギーを推進できる。 ・苗の配布や啓蒙活動により栽培経験がなくても、手軽に、楽しく環境によい暮らしを実現できる。 ・環境によい街づくりに貢献できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の主体性を引き出すことができる ・若年層、子育て世代など忙しい世帯の参加を促進できる ・運営管理コスト、時間の削減
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	毎月末に事業の進捗状況及び実績を、メール等で報告・情報交換する。		
事業の周知方法	公共施設、学校等へのチラシの配布、SNS の配信、広報いんざい、市ホームページへの掲載等。		
評価の方法 (具体的な目標値)	目標値 公式ライン登録者数・インスタグラムフォロワー合計 前年比 150 人増 コンテスト応募者数 100 件 環境講座・イベント参加者 400 人		
備 考	関係団体等・みんなのおにわ、駄菓子屋あめちゃん		
	その他（添付書類等）		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,768,506 円
市から団体への委託費 （金 1,496,606 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額		1,496,606
その他収入		
提案者負担分		
無償労働力等換算金額	労働力 230,400 円 機材費 41,500 円	(271,900)
合 計（無償分を含めない）		1,496,606 円
無償分を含めた合計額		(1,768,506)

項目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額 (円)
種代	ゴーヤ 2L40,000 円、ヘチマ 1000 粒 11,000 円、バタフライ ピー100 粒 1800 円（送料 1600 円）、パッションフルーツ苗 10 個×5900 円、ホップ苗各 10 個×800 円	121,400
育苗	培土、ポット、播種・管理・育苗 1000 苗×140 円	140,000
種配布用袋	種用の小袋 1000 枚 53,060 円×ラベルシール印刷 1000 枚(1 枚 1.8 円)	54,860
種袋詰め	種袋詰め・ラベルはり作業 1200 円/h×2 名×10 h	24,000
公共機関への配布	市内 3 か所公共施設グリーンカーテン運搬・設置・管理サポ ート 1200 円/h×3 名×10 h×3 箇所=108000 円	156,300
		156300
	プランター、培土、ネット (3 施設各 20~30 苗)	
	新規プランター2500 円×12 個、培土・追肥 2500 円×3 か所、ネッ ト 1800 円×2 個×3 か所	

P R 用品	PR パネル作成 A2 パネル 3 枚 4,500 円	72,946
	コンテスト募集用 A3 ポスター 40 枚 24,046 円	
	G C チャレンジ・コンテスト募集チラシ	
	1000 枚×30 円/枚（カラー）=30,000 円	
	デザイン作成 1200 円/h×12h=14400	
P R ・ 啓蒙普及	質問対応・栽培情報・コンテスト情報発信	230,400
情報提供	ポスター設置・ポスティング 3 名×30 時間×1200 円/時	230400
	（Instagram 画像編集、投稿作成、7 か月運用）	
	1200 円/h×1 名×6 h×7 か月=50,400 円	
	初心者向け取り付け・栽培・片付け方法情報発信	
	（youtube 動画収録編集）	
	1200 円/h×2 名×30h=72,000 円	
G C コンテスト募 集・開催	公式ライン運用 7 カ月システム料	214,300
	5,000 円/月×7 カ月=35,000 円	
	エルメッセージ運用 5 か月システム料	
	10,780/月×5 か月=53,900 円	
	※配信数に応じて料金変動するため有料期間が 5 ヶ月と試算	
	システム構築・運用・募集・集計	
	1200 円×1 名×10 h/1 か月×8 カ月間=96,000 円	
	景品購入 1000 円相当×10 名、5000 円相当×1 名、合計 15000 円 郵送手続き 1200 円/h×2 名×6 h=14,400	
教育施設配布	小学校出前講座 3 回 （1 学年 200 人程度）	284,400
	前日準備・当日運営にかかる人件費	
	1200 円×12h×3 回×4 名=172800	
	授業プラン作成・および打ち合わせ	
	1200 円×10h×3 回=36000	

	資料作成・苗運搬費用	
	新規プランター2500 円×12 個、培土・追肥 1500 円×16 袋、ネット 1800 円×12 枚	
市民配布	環境フェスタ、大型商業施設イベント等 3 回	90,000
	1200 円×10 時間×6 名=72000 円	
	市民配布 3 回×6 名×保険料 1000 円/人	
公共施設での設置 維持管理	学校、支所、市営施設でのグリーンカーテンの設置および管理	108,000
	1200 円/h×3 名×6 h×5 日	
無償分を含めない 合計額		1,496,606
提案者が負担する	全体の配布プラン作成	(230,400)
無償労働力(A)	1200 円×2 名×3 日×12h=86400 円	
	集合住宅等でのチラシ設置場所確保・設置依頼	
	1200 円×3 名×2 日×6 h=43200 円	
	公共施設・事業者への事前連絡	
	1200 円×2 名×10h=24000 円	
	チラシデザイン・苗タグデザイン打ち合わせ	
	1200 円×2 名×8 h×4 日=76800 円	
提案者が負担する	苗運搬用軽トラ 5 日×5500 円/1 日=27,500 円	(41,500)
無償機材等(B)	撮影用機器 7 日×2000 円/1 日=14000	
無償労働力等換算 金額	(A)+(B)	(271,900)
無償分を含む総事 業費		1,768,506

(提案書 様式④ 最終審査)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4 月	種の配布 SNS でのグリーンカーテンの効果魅力発信	公共機関 種 1000 袋配布 小学校
5, 6 月	公共機関、学校での環境講座と苗配布 SNS 発信 種の育て方 苗の設置の仕方の発信 環境フェスタ・公共施設での苗の配布 学校、公共施設でのグリーンカーテン設置	苗 200 個配布 一般市民 苗 500 個配布 小学校環境講座 受講者 300 人
7 月	SNS 配信 各植物の管理方法適宜配信	環境フェスタ
8 月	公共施設のグリーンカーテン生育チェック グリーンカーテンコンテストの周知	250 人
9 月	SNS 発信 片づけ方の発信	コンテスト応募
10 月	グリーンカーテンコンテスト応募者募集 グリーンカーテンコンテスト集計 グリーンカーテンコンテスト結果発表・発信・総括	数 80 件
11 月	SNS 発信 土の再生作業 冬越し管理の仕方	
1 月		
2 月	土造り	
3 月	種苗等の発注準備	

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)

-7.9.-3

協働の機会提案書(継続提案用)

2025年9月3日

(あて先) 印西市長

(登録者) 登録番号 06-004
 名称 一般社団法人SODO
 所在地 印西市小林
 代表者 鈴木 広美
 連絡先
 E-mail suzuki.hiromi34@gmail.com

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

☐ 自由提案型 ☒ 指定テーマ型

提案事業名 里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

印西市の自然環境保全・活動の現状や、今後、自然環境を維持・保全し、活用し続けるための課題を整理しました。(以下の図1参照)

【図1: 印西市の自然環境の保全・活動等の現状・課題】

現状・課題
(前年度の実施
を踏まえた課
題)

現状	市民	<ul style="list-style-type: none"> 「樹林地や農地等の緑の豊かさ」、「空気のきれいさ」、「市街地の緑化」に関する満足度が高い。(※1) 住み続けたい理由として、「自然が豊か」、「良好な景観」が上位に。(※2)
	市外在住者	<ul style="list-style-type: none"> 市外在住者から見た印西市の魅力は「豊かな自然」が1位 (※2)
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動に参加してみたいと思う事業者は7割を超え、連携の可能性は高い。(※1)
	市民活動団体	<ul style="list-style-type: none"> 緑の豊かさは、里山の自然を守る市民活動団体等により維持されている。 活動団体は複数存在し、市内各所で活動が展開されている。
	行政(市)	<ul style="list-style-type: none"> 印西市環境基本計画において、谷津と台地における「グリーンインフラ」としての機能に着目し、土地利用を検討する方向性を掲げているなど、市としてグリーンインフラを推進している。
	研究機関	<ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラの社会実装やその機能についての研究が進められている「グリーンインフラ先進地域」となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 緑の豊かさは、里山の自然を守る市民活動団体等により維持されている。 豊かな自然環境は印西市の価値であり、市民は大きな魅力と捉えている。 企業の参加意識、研究機関によるグリーンインフラ研究など、素地は整っている。 	
	市民	<ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者ともに「活動への参加のしやすさ」の満足度が低い。(※1) 里山の保全イベントなどに参加している市民は少ない。(※1) 活動への参加の障害と考えられる、保全活動の状況(団体、活動内容)、グリーンインフラの価値等に関する情報不足や、活動(市民活動団体等による維持・保全)による価値の理解不足を解消することが必要。
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による人材・担い手の不足、活動の継続性の確保が課題となっており、団体の枠にとらわれない活動のあり方の検討が必要。

多様な主体の連携により、印西市の豊かな自然環境を継続的に維持・保全するため、広く市民等にグリーンインフラや活動による価値をわかりやすく情報発信するとともに、里山保全活動を実施している市民活動団体と環境に関心のある市民や事業者を橋渡しする仕組みづくりが重要

※1: 第3次印西市環境基本計画 市民意識調査結果、市民意識調査、事業者意識調査、※2: 印西市総合計画審議会 市民ニーズに係る調査

	<p>本事業は、本年度(令和 7 年度)にスタートした事業であり、令和7年4月に「いんざい里山グリーンインフラ推進協議会」を設置し、活動を開始しました。令和6年度に協議会の設置に向けて開催した準備会での活動・議論や、提案者らの活動の中で把握したことなども含めて、印西市の自然環境保全・活動の現状や、今後、自然環境を維持・保全し、活用し続けるための課題を図 1 に整理しました。</p> <p>また、課題解決のために、実施していくべきと考えられることを以下に示します。</p> <p>【課題解決のために、実施していくべきと考えられること】</p> <p>■市民・事業者等の自然環境の現状やその価値に対する理解醸成</p> <p>印西市の自然環境や、自然環境の持つインフラ機能を発揮していることを市民の方に知っていただくことが必要であり、<u>印西市の自然環境の現状や、今後の保全・活用に向けた課題等について、分かりやすい情報発信を行い、市民の自然環境の保全・活用に関する理解の醸成を図っていくことが重要です。</u></p> <p>■自然環境の保全・活用を行っている団体等の現状把握と情報の共有</p> <p>印西市内には、里山等の自然環境の保全・活用に係る活動を展開している市民活動団体等が多く存在していますが、各団体の活動内容やそれぞれの団体が抱えている課題などが十分に把握されていません。</p> <p>今後、<u>多様な主体との連携を推進するとともに、市民活動団体の課題解決や活動の量的・質的向上等を図るためには、各団体の現状を的確に把握し、団体間で継続的に課題を共有し、連携を図るとともに、それらの情報を市民や事業者とも共有していくことが重要です。</u></p> <p>■市民活動団体と環境に関心のある市民や事業者を橋渡しする仕組みづくり</p> <p><u>印西市の豊かな自然環境は、里山の自然を守る市民活動団体等により維持されています。多くの市民や市外在住者が印西市の価値・魅力と捉えている自然環境を維持していくためには、このような活動を継続・拡大していくことが必要です。</u></p> <p>市民や企業の参加意欲、先進的な研究等の素地は整っていますが、活動を継続・拡大していくためには、<u>多様な主体の現状、課題、ニーズ等を的確に把握し、連携を図るための仕組みをつくり、継続的に運営していくことが必要です。</u></p>
<p>提案理由</p>	<p>■背景</p> <p>近年、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」いわゆる<u>ネイチャーポジティブの取り組み推進</u>が国際目標となり、我が国においても、生物多様性国家戦略に反映されるとともに、自然共生サイトの認定などの関連施策が進められています。また、ビジネス分野においては、<u>多くの企業が、自然環境の回復への貢献ができる選択肢を模索</u>しています。</p> <p>印西市においても、総合計画では、まちづくりの方向性として、「<u>自然と都市が調和する快適で人にやさしいまちをつくります</u>」を挙げています。また、第3次印西市環境基本計画では、「<u>里山の保全に向けた、市民・事業者・行政の協働に基づく保全及び活用の仕組みづくりを検討すること</u>」を施策としています。さらに、緑の基本計画も含めて、<u>グリーンインフラの活用・推進</u>を挙げています。</p>

	<p>■印西市の自然(里山)環境の保全・活用の意義</p> <p>印西市は、ニュータウン開発等により人口が増加し、また、多くの企業が誘致され、活動が展開される一方で、<u>市街地近郊に豊かな里山環境(台地上の草原・畑、樹林、湧水、水田、谷津等)が残されている稀有な地域</u>です。これらの里山環境は、生物多様性のみならず、<u>防災・減災、水循環、水質浄化、ウェルビーイング(幸福)の向上など、自然環境の有する多面的な機能を活かした「グリーンインフラ」として、複合的な地域課題の解決にも寄与</u>します。</p> <p>■印西市の自然(里山)環境の保全・活用に係る活動の現状</p> <p>市内には、前述の通り、里山の自然環境の保全や活用に関わる<u>市民活動団体が多数存在し、活動が展開</u>されています。また、大学・研究機関等によるグリーンインフラ機能についての研究も数多く進められており、<u>我が国におけるグリーンインフラ研究の先進地域</u>となっています。</p> <p>■協議会の継続運営の提案</p> <p><u>自然環境の保全に関心のある企業、市民団体、研究者、行政がそれぞれの強みを発揮し、市民団体間の連携を深めるなど、各主体が有機的な連携を図る</u>ことで、印西市の里山環境を良好に保ち、グリーンインフラとして持続的に活用する仕組みを構築できれば、<u>地域住民や企業が豊かな自然環境の恵みを享受し続けることに大きく寄与</u>することが期待できます。</p> <p>その実現のためには、<u>情報共有・連携を図るための土台となるプラットフォーム</u>の存在が効果的であり、本事業で令和7年4月に設置した協議会の継続的運営と協議会による様々な活動、今後の発展により、その役割を担うことができると考えます。</p>
<p>提案内容 (予算の概算は 提案書様式① ー4)</p>	<p>1)目標</p> <p>印西市内で活動する里山保全活動団体や市民、関心のある企業など、多種多様な主体の連携を図り、印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用に向けた管理体制を構築し、地域活性化に資する。</p> <p>2)対象とする里山(対象地)</p> <p>印西市が所有もしくは管理する里山的環境(台地上の草原・畑、樹林、湧水、水田、谷津等)を有する土地を対象地とします。なお、対象とする活動団体や取組等については、民有地における活動も対象とするものとします。</p> <p>3)協議会の継続的運営／連携実現のための課題解決に向けた活動</p> <p>令和7年4月に設置した「いんざい里山グリーンインフラ推進協議会」を継続的に運営します。協議会では、印西市の里山環境の現状把握、管理目標、管理体制等について検討・議論・調整するとともに、企業を含む多様な主体との新たな連携に向けたアクションについて検討・議論します。</p>

①協議会の運営体制

令和7年4月のスタート時は以下のメンバーによって協議会を発足しました。

【当初メンバー(R7.4)】

印西市:環境保全課、市民活動支援センター

市民活動団体:NPO 法人亀成川を愛する会、NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会、NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク、一社 SODO(事務局)

研究機関:国立環境研究所(気候変動適応センター 西廣副センター長、大坂氏)

令和8年度は、発足時メンバーを基本にコアメンバーとして位置付けるとともに、協議会のメンバーは希望する団体や庁内部局、事業者等にも間口を広げていくことを目指します。(既に1団体の新規参加あり)

②協議会の開催方法・頻度

協議会構成メンバーの増加を目指し、コアメンバー会議(全体会議開催月を除き1回/月程度)、全体会議(年2回程度)を開催することを想定します。

区分	頻度	主な議題等
コアメンバー会議	1回/月程度※	協議会運営に関する事項、協議会での調査・検討に関する事項、イベントや取組の企画に関する事項
全体会議※	年2回程度 ※うち1回は交流会と共催	活動(里山の保全・活用)における課題の共有・議論、活動に役立つ情報の共有、印西市における里山の保全・活用、グリーンインフラ推進に関する議論、先進事例等の紹介等

※全体会議開催月を除く

全体会議は、協議会構成員に加え、オブザーバー参加も含めた開催を想定するものとします。また、後述する交流会を効果的に組み合わせ、市民活動団体等が協議会に参加しやすい環境を整えていきます。

協議会の開催場所は、会議の開催内容に応じて、印西市役所内の会議室やコスモスパレット等での開催を想定しています。

4)協議会での活動・取組(案)

当初想定する活動・取組は以下の通りとし、協議会での検討・議論等を踏まえて、適宜見直しや追加をしていきます。

活動・取組	概要
①多様な主体の連携の土台作り(交流、情報発信)	・里山保全団体等の交流会 ・イベントでの情報発信・交流 ・事業内容・事業成果のホームページでの情報発信 ・市役所内でのグリーンインフラの理解醸成への協力
②里山保全団体の取組推進支援	・自然共生サイト登録の支援 ・対象地での活動の量的・質的向上の支援
③多様な主体の連携推進の検討	・里山保全団体等に対するヒアリング ・庁内関係部局との連携可能性調査 ・事業者のニーズ等の把握
④対象地(市所有・管理地)の現況把握(情報プラットフォームの基礎)	・マップの更新・追加 ・自然環境調査委託との連携
⑤今後の連携の仕組みのあり方／継続的な運営方法の検討	・プラットフォームの持つべき機能の検討 ・継続的・発展的運営の検討

①多様な主体の連携の土台作り(交流、情報発信)

多様な主体の連携に向け、里山保全団体間、里山保全団体と市民・事業者等の交流を図ります。合わせて、グリーンインフラや保全活動によって維持される自然環境の価値の市民や事業者の理解を深めていただくために、取組や検討の成果を各種の広報手段により広く公表・周知していきます。

a)里山保全団体等の交流会の企画・開催

里山の保全活動や里山を活用した活動を行っている団体、このような活動に関心のある団体等を対象に、印西市の里山におけるグリーンインフラ機能の保全・活用等に関する講演等の情報提供や、各団体の活動における課題等について共有・意見交換を行えるような交流会を企画・開催します。

※取組の進捗状況や熟度等を踏まえ、事業者等の参加も検討

b)イベントでの情報発信・交流

一般向けに、印西市の自然環境の現状・課題、グリーンインフラ・ネイチャーポジティブを活かしたまちづくり等について分かりやすく解説するとともに、本事業の目指す『多様な主体の連携による印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用』等の理解促進を図ります。また、イベントの場を通じて、市民や事業者の方々との交流を図ります。

⇒イベント(市開催等:環境フェスタ等)への出展

⇒関連イベントへの参加／共催

c)事業内容・事業成果の情報発信(ホームページ)

事業で作成したマップや広報資料、協議会での議論の結果等について、HP*等で市民や企業に事業内容や成果をオープンに情報発信することにより、印西市の里山環境の保全・再生やグリーンインフラとしての持続的な利活用の重要性等の意識啓発や、取組への参加促進を図ります。

※提案団体のホームページでの情報発信(R7 年度開始予定)を継続実施予定

d)印西市役所内でのグリーンインフラに関する理解醸成への協力

令和7年度より、印西市役所内でグリーンインフラの保全・活用の推進のための庁内検討会が開始されました。協議会としても、検討会と連携を図るとともに、検討会の運営に資する情報提供等を行います。

②里山保全活動団体の取組推進支援

対象地(印西市所有・管理)において、以下に挙げるような取組を推進します。

a) 自然共生サイト登録の支援

対象地において自然環境保全等の活動を行っている市民活動団体等と連携して、自然共生サイト^{※1}への申請・登録を推進します。

※1:自然共生サイト:「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域。認定区域は、保護地域との重複を除き、「OECM^{※2}」として国際データベースに登録される。⇒P9 参考資料参照

※2:OECM:生物多様性の価値があり、事業者、地域、行政等による様々な取組によって、生物多様性の保全が図られている区域(国立公園など、既に保護されている区域を除く)

令和7年度、協議会メンバーである「谷田武西の原っぱと森の会」が保全活動を行っている「武西の里山」について、申請を行い、認定されました。申請にあたって得られたノウハウを蓄積しながら今後も支援を進めていきます。

b) 対象地での活動の量的・質的向上の支援

下記③に挙げている多様な主体の連携推進のための調査等を踏まえ、市民活動団体等による、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用に資する活動の量的・質的拡大を図ります。

具体的な手段としては、ヒアリング、全体会議、交流会などを通じた先進事例等の紹介、取組の実施を検討する団体との打合せ、研究機関や企業とのマッチングなどを想定します。

③多様な主体の連携推進の検討

多様な主体の連携による取組推進に向けて、各主体の課題やニーズ・シーズを調査・把握し、取組の推進につなげます。

a) 里山保全活動団体等に対するヒアリング

令和 7 年度の協働事業で整理を進めている市民団体等の現状を踏まえ、各団体等の課題を把握し、効果的な連携や提案を行うため、各団体にヒアリングを行い、詳細な活動内容や活動における課題、企業や行政との連携可能性を調査・把握します。

b) 関係部局における連携可能性調査

庁内検討会と連携し、グリーンインフラの推進と関連のある部局において推進されている行政施策との連携可能性を調査します。

c) 事業者のニーズ等の把握

市内外の事業者のニーズを把握するため、提案者らが参加している別途プロジェクトでのネットワーク等を活用した情報収集により、事業者との連携の可能性や連携に向けた課題を調査します。

④対象地(市所有・管理地)の現況把握(情報プラットフォームの基礎構築等)

令和 7 年度の協働事業で作業を進めている、印西市が所有または管理する土地(緑地等取組対象となり得る土地)の現状(自然環境の状況、管理状況等)を把握・整理した成果(マップ、リスト)をベースとして、以下の情報等の追加・活用を検討し、今後の印西市におけるグリーンインフラの保全・活用推進の基礎となる「情報プラットフォーム」の構築に向けて検討を行います。

⇒国立環境研究所での研究において検討・作成されているポテンシャルマップ

⇒令和 7 年度から実施されている自然環境調査委託(環境保全課)での調査成果 等

⑤今後の連携の仕組みのあり方／継続的な運営方法の検討

印西市の豊かな自然環境の保全・活用、グリーンインフラ施策の推進のためには、自然環境の維持・保全活動の継続性が重要であり、そのためには、「市民活動団体と市民や事業者を橋渡しする仕組み＝プラットフォーム」を構築し、プラットフォームを継続的・発展的に運営していくことが不可欠です。

検討にあたっては、プラットフォームにおいて持つべき機能(交流、連携推進、情報提供、情報発信、活動サポート等)を協議会で議論し、その実現に向けた方策や継続的・発展的運営のあり方等について検討していきます。

現在、千葉ニュータウン地区においては、産官学連携によるネイチャーポジティブの推進に向けたプラットフォームの設置などが継続的に議論されており、これらの動きとも有機的に連携し、望ましい体制について検討を行っていきます。

■継続的な里山保全活動実績

共同提案者のうち NPO 法人3者(亀成川を愛する会、谷田武西の原っぱと森の会、ラーバン千葉ネットワーク)は、市の保有・管理地を含む印西市内の里山保全活動を長年に渡って実践してきており、里山の現状や、今後の保全・活用における課題等について熟知しています。また、市内外の関連団体や企業、地域の方々との良好な関係を維持しており、事業を円滑に進めることができます。

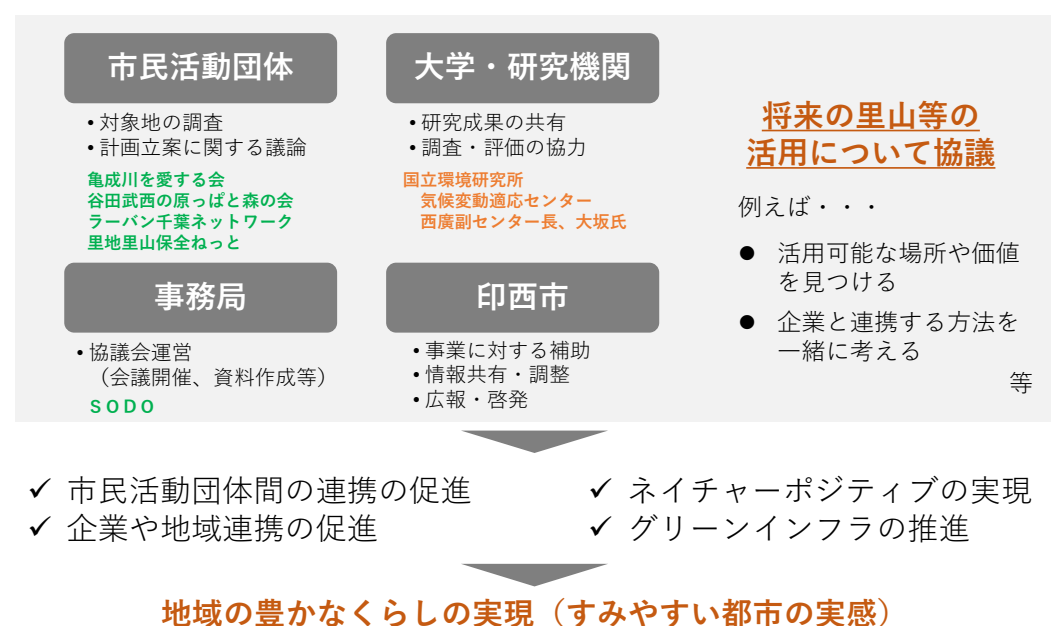
■グリーンインフラの地域実装等に関する最先端の知見・ネットワーク

協議会での取組の推進体制には、グリーンインフラ・ネイチャーポジティブ及びその地域実装分野における我が国最先端の研究機関である国立環境研究所(気候変動適応センター 副センター長 西廣淳氏他)の協力を得られることとなっています。そのため、印西市におけるグリーンインフラの推進、ネイチャーポジティブの実現を図るにあたって、技術的支援や、最新の研究事例・国の動向等についての情報提供を受けることができます。また、国立環境研究所は、様々な研究機関や行政、企業等との連携により、北総地域での里山保全・活用の取組を先導しており、様々な地域主体とのネットワークを有していることから、事業を効果的に進めることができます。

■地域のグリーンインフラ分野に精通した協議会運営

共同提案者のうち一般社団法人SODO(協議会事務局担当)は、北総地域を中心とする千葉県内において、「生態系を賢く活かした豊かな地域づくりを推進する」ために設立された中間支援団体であり、地域の状況、行政の上位・関連計画など、本事業を進める上で必要となる情報に精通しています。また、市内外の関連団体や行政機関、企業等とのネットワークを有しており、事業を円滑に進めることができます。

■協議会の運営体制(コアメンバー)



■事業実施により得られる主な効果

本事業の実施により、以下に挙げるようなことが実現できます。

本事業で直接的に実現できること	結果として実現が期待されること
<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の継続的運営(市民・事業者・行政の協働による里山の保全・活用の仕組み) ・里山の保全・活用に係る市民活動団体間の連携促進 ・里山の保全・活用に係る地域、企業の連携促進 ・連携によって保全・維持されている里山(市有地)の自然共生サイト登録 ・印西市内の里山(市所有・管理地)の現状把握 ・HP 等を通じた情報発信による市民・企業への広報、意識啓発、参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の保全・活用の推進 ・生物多様性の保全 ・グリーンインフラの推進 ・ネイチャーポジティブの推進 ・カーボンニュートラルへの貢献 ・地域の豊かな暮らしの実現 ・市民団体間の連携促進 (多様な主体の交流の場の創出)

■関連する印西市の施策

本事業は印西市の進める施策と広範に関わりがあり、以下に例示するような施策の実現に寄与することができます。

①印西市総合計画 : 自然との共生の実現

②第3次印西市環境基本計画 : 樹林地・斜面林の保全、いきものの生息・生育空間の把握、多様な生態系の保全、水辺環境の保全、自然と調和したまちづくり、環境に配慮したまちづくりの推進、環境学習の場と機会の創出、各主体における環境配慮行動の推進、各主体間の連携促進、重点的な取組1: 自然の力を活かそう! グリーンインフラ大作戦!!

③印西市緑の基本計画 : 樹林地の維持管理の仕組みの充実、樹林地の保全、耕作放棄地の活用、水辺環境の保全、健全な水循環の保全、河川の水質改善、生物の生息・生育空間の保全、緑あふれる景観の保全、緑地保全・緑化推進団体の育成、自然環境の活用、市民参加による管理・運営の推進、市民による樹林地の保全・活用制度の創設、協働による里山の調査・保全、緑に関する情報発信

④いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050 : (自然生態系) 気候変動の影響を踏まえた里山・谷津の管理運営を行うための体制づくりの推進、自然環境の保全活動を行っている市民活動団体同士の連携を強化し、市・市民活動団体及び企業が一体となった里山保全活動の取組(自然災害)気候変動の影響による災害リスクを回避・軽減するグリーンインフラの機能を活用するため、里山の保全事業を推進

■今後の展望

上記の通り、印西市の豊かな自然環境の保全・活用、グリーンインフラ施策の推進のためには、自然環境の維持・保全活動の継続性が重要であり、そのためには、「市民活動団体と市民や事業者を橋渡しする仕組み＝プラットフォーム」を構築し、プラットフォームを継続的・発展的に運営していくことが不可欠です。

検討にあたっては、プラットフォームにおいて持つべき機能(交流、連携推進、情報提供、情報発信、活動サポート等)を協議会で議論し、その実現に向けた方策や継続的・発展的運営のあり方等について検討していきます。

一例としては、中・長期的に、上記のような機能を有した「(仮称)グリーンインフラサポートセンター」を設置を目指し、里山保全活動を実施している市民活動団体と環境に関心のある市民や事業者等との連携を推進することで、印西市の豊かな自然環境の継続的な保全・維持の実現が考えられます。

■参考：自然共生サイトについて

2022 年 12 月の生物多様性条約第 15 回締約国会議(COP15)において、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、「ネイチャーポジティブ(自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる)」が掲げられました。その実現に向けた主なターゲットの1つが「30by30 目標」です。

「30by30 目標」とは、陸と海のそれぞれ少なくとも 30%を保護地域及び OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)により保全するというものです。

「30by30 目標」の達成に向けて、全国あげて取り組んでいく必要がありますが、「市民活動団体等によって保全されている里山」は、「30by30 目標」の達成に向けて、重要な構成要素となります。

【自然共生サイト・OECMについて、環境省資料】

OECM

2010年に日本で生まれた
自然を守る方法です。

生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)において、2030年までの新たな世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。この世界目標を踏まえ、我が国では、2030年ミッションとして、生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ」の実現を掲げています。この実現に向けて、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標(30by30目標)を位置づけています。

【保護地域以外】で、生物多様性保全に資する地域 Other Effective area-based Conservation Measures

『自然共生サイト』について



自然共生サイトとは

ネイチャーポジティブの実現に向けた取組の一つとして、環境省では、企業の森や里地里山、都市の緑地など「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定する取組を令和5年度から開始しました。認定区域は、保護地域との重複を除き、OECM(Other Effective area-based Conservation Measures:保護地域以外で生物多様性保全に資する区域)として国際データベースに登録され、30by30目標の達成に貢献します。

- ・「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を保護地域内外問わず『**自然共生サイト**』に認定。
- ・「自然共生サイト」に認定された区域のうち、**保護地域との重複を除いた区域**を『**OECM**』として登録。

2024 年度末時点で、全国で 328 箇所、千葉県では 11 箇所、印西市では 1 箇所が自然共生サイトに認定されています。千葉県下の 11 箇所の多くは、市民団体、市民、企業等によって保全されている里山環境となっています。

2025 年度には、当協議会において取り組んできた「武西の里山」が認定サイトに追加されます。

【2024 年度末時点の千葉県の認定サイト一覧】

No	サイト名	申請者名	所在地(都道府県)	所在地(市町村)
73	堂谷津の里	NPO法人バランス21	千葉県	千葉市
74	植草共生の森	学校法人植草学園 植草学園大学	千葉県	千葉市
75	国分川調節池緑地自然ふれあいゾーン、散策・休息ゾーンの一部	千葉県市川市	千葉県	市川市
76	天神山樹林	個人	千葉県	松戸市
77	下田の杜	特定非営利活動法人下田の杜里山フォーラム	千葉県	柏市
78	NEC我孫子事業場(四つ池)	日本電気株式会社	千葉県	我孫子市
79	君津グリーンセンター(旧樹芸林業試験場)	内山緑地建設株式会社	千葉県	君津市
80	東京ガス袖ヶ浦LNG基地	東京ガス株式会社	千葉県	袖ヶ浦市
81	竹中工務店 技術研究所 調の森 SHI-RA-BE®	株式会社竹中工務店	千葉県	印西市
82	ハツ堀のしみず谷津	清水建設株式会社	千葉県	富里市
83	グリーンポート エコ・アグリパーク	成田国際空港株式会社	千葉県	山武郡芝山町

共同提案者名簿一覧

(登録者) 登録番号 ０５－００２

名 称 NPO法人亀成川を愛する会
所在地 印西市木刈
代表者職氏名 理事長 小山 尚子
連絡先

(登録者) 登録番号 ２１－００２

名 称 特定非営利活動法人ラーバン千葉ネットワーク
所在地 印西市木下
代表者職氏名 理事長 丹澤 正直
連絡先

(登録者) 登録番号 ２３－００３

名 称 特定非営利活動法人谷田武西の原っぱと森の会
所在地 印西市小倉台
代表者職氏名 理事長 矢野 真理
連絡先

(登録者) 登録番号 —

名 称
所在地
代表者職氏名
連絡先

※記入箇所が足りない場合は適宜追加してください。

協働事業計画書		
事業名	里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業	
事業の目的	市と市民団体が協働による協議会を設置することにより、印西市内で活動する里山保全活動団体をはじめ、研究機関や企業など多種多様な主体との新たな連携体制を図り、印西市が所有・管理する里山を対象に「生物多様性の保全」、「里山の水循環」、「地域活性化」の管理体制の構築を目指し、里山の保全・活用に取り組んで行くことを目的とします。	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 印西市総合計画 (自然との共生の実現)、第3次印西市環境基本計画、印西市緑の基本計画 (部署名) 環境保全課	
事業期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
事業の内容 <small>詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)</small>	提案者	市
	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会の運営 ○多様な主体の連携の推進 ○事業の広報、グリーンインフラに関する情報発信 ○里山保全活動団体の取組推進支援 ○対象地の現況把握 (情報プラットフォームの基礎構築) ○今後の連携の仕組みのあり方／継続的な運営方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業に対する補助 ⇒協議会等の開催場所の提供 ⇒検討に必要な情報提供 ⇒関係部局との連携・調整 ⇒イベントの補助 ○市所有地や公共用地を使用する場合の借用および連絡調整 ○周知・啓発 (広報、HP 等)
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	114,000円	1,655,000円
事業の運営体制 <small>(事業関係者、協力者、有資格者など)</small>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>市民活動団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地の調査 ・計画立案に関する議論 <p>亀成川を愛する会 谷田武西の原っぱと森の会 ラーパン千葉ネットワーク 里地里山保全ねっと</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>大学・研究機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の共有 ・調査・評価の協力 <p>国立環境研究所 気候変動適応センター 西廣副センター長、大坂氏</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会運営 (会議開催、資料作成等) <p>SODO</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>印西市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業に対する補助 ・情報共有・調整 ・広報・啓発 </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">将来の里山等の活用について協議</p> <p>例えば・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活用可能な場所や価値を見つける ● 企業と連携する方法を一緒に考える <p style="text-align: right;">等</p> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>✓ 市民活動団体間の連携の促進 ✓ ネイチャーポジティブの実現</p> <p>✓ 企業や地域連携の促進 ✓ グリーンインフラの推進</p> </div> <p style="text-align: center; color: #e67e22;">地域の豊かなくらしの実現 (すみやすい都市の実感)</p>	

	提案者	市 民	市
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	○各団体の里山保全活動の量的・質的向上 ⇒企業や市民との連携 ⇒協議会での共有等を踏まえた活動へのフィードバック ⇒市の施策実現・グリーンインフラ機能の担い手としてのモチベーション向上 ○協議会を通じた各団体の課題解決	○身近に自然と触れ合い、親しむことができる多様な場（里山・緑地等）の確保 ○活動によって維持・保全される里山等のグリーンインフラ機能の享受 ○QOL、Well-being 向上	○多様な主体との連携による市の政策課題の実現
	○多様な価値観に対応した地域づくり、市の魅力の向上 ○市内の里山の維持・保全、グリーンインフラ機能の向上による気候変動や生物多様性などの地球規模の課題等への対応		
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	○協議会コアメンバー会議（1回／月程度）：協議会運営に関する事項、協議会での調査・検討に関する事項、イベントや取組の企画に関する事項についての共有・意見交換 ※その他、メール等で随時情報交換を行う。		
事業の周知方法	○里山保全団体交流会の開催（市内の里山保全活動や関連団体を対象） ○イベントでの広報 ⇒他イベントへの出展（いんざい環境フェスタ等） ⇒関連イベントへの出展・共催 ○事業内容・事業成果の情報発信（提案者のHP内に協議会特設ページを設置） ○市広報、ホームページへの掲載		
評価の方法 (具体的な目標値)	協議会：コアメンバー会議（10回） 協議会（全体会議）（2回：20名） 交流会・イベントの参加者：交流会（1回：30名）、イベント出展（1回） 印西市内の里山の自然共生サイト認定：1箇所まで認定に向けた検討		
備 考	関係団体等：国立研究開発法人国立環境研究所気候変動適応センター 西廣副センター長、大坂氏		
	その他（添付書類等）		

(提案書 様式③ 最終審査)

企画提案型協働事業経費内訳書

無償分を含む総事業費 (金 3, 4 7 6, 9 2 0 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 金 1, 6 5 5, 0 0 0 円

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費(技術的検討に係る部分)、イベント等開催経費 協議会参加旅費交通費(市民活動団体)	1,655,000
提案者が負担する額	旅費交通費(事務局) 協議会(コアメンバー会議、全体会議)印刷製本費	114,000
その他収入		0
無償分を含めない合計額		1,769,000
無償労働力等換算金額	人件費(事務局の協議会運営に係る人件費) 会議出席費(事務局以外の協議会出席に係る謝礼金相当) 交通費(協議会メンバーである国立環境研究所が負担する額)	(1,707,920)
無償分を含む総事業費		(3, 476, 920)

【歳出】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費 (市)	①多様な主体の連携の土台作り(交流・情報発信) ①-1 交流会の企画・開催 8 人日×25,200 円※単価 1	201,600
	①-2 イベントの企画・開催 8 人日×25,200 円※単価 1	201,600
	①-3 情報発信資料の作成、HP を通じた情報提供 10 人日×25,200 円※単価 1	252,000
	②里山保全活動の取組推進支援 ②-1 自然共生サイト申請に係る検討 ※市保有・管理地の自然共生サイト申請に必要な情報整理、モニタリング計画策定、申請書類作成 10 人日×25,200 円※単価 1	252,000
	②-2 対象地での活動の量的・質的向上 ※先進事例調査、団体との協議・調整等 5 人日×25,200 円※単価 1	126,000

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費（市）	③多様な主体の連携推進の検討 ③-1 里山保全団体等に対するヒアリング等 5 人日×25,200 円※単価 1	126,000
	③-2 市関係部局における連携可能性調査 3 人日×25,200 円※単価 1	75,600
	④対象地の現況把握(情報プラットフォームの基礎となるマップ更新等) ※GIS を用いたマップの更新等 8 人日×25,200 円※単価 1	201,600
	⑤今後の連携の仕組みのあり方/継続的な運営方法の検討 3 人日×25,200 円※単価 1	75,600
イベント等開催経費（市） （交流会、イベント）	会場費(交流会):1 回×10,000 円 機材費(交流会・イベント):2 回×10,000 円 資料・チラシ等印刷費(イベント):50,000 円 資料等印刷費(交流会):15,000 円	95,000
旅費交通費（市）	協議会等参加交通費(市民活動団体) 4 人×12 回×1,000 円※市内移動の交通費・雑費相当額	48,000
旅費交通費（提案者）	協議会参加交通費(事務局) 2 人×12 回×1,000 円※市内移動の交通費・雑費相当額 ヒアリング、現地踏査等交通費(事務局) 2 人×5 回×1,000 円※市内移動の交通費・雑費相当額	34,000
印刷製本費（提案者）	会議資料の印刷 コアメンバー会議:12 部×10 回×500 円 全体会議:20 部×2 回×500 円	80,000
無償分を含めない合計額		1,769,000
提案者が負担する 無償労働力(A)	【事務局】 ①協議会の運営(会議の連絡・調整、協議会資料の作成、会議進行、記録作成) コアメンバー会議:3 人日×10 回×25,200 円※単価 1 全体会議 :5 人日×2 回×25,200 円※単価 1	(1,008,000)
	②協議会・交流会の出席 ●市民活動団体(事務局以外) 協議会:4 人×12 回×2 時間×3,800 円※単価 2 交流会:4 人×1 回×2 時間×3,800 円※単価 2 ●関係団体等 協議会:2 人×12 回×2 時間×4,900 円※単価 3 交流会:2 人×1 回×2 時間×4,900 円※単価 3	(650,000)
提案者が負担する 無償機材等(B)	協議会等参加交通費(関係団体等) 2 人×12 回×2,080 円※国環研～木下往復(公共交通機関)を想定	(49,920)
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	(1, 707, 920)
無償分を含む総事業費		(3, 476, 920)

■単価の設定根拠

1) 専門技術を要する作業の単価（単価 1）

以下に挙げる専門技術を要する作業については、国土交通省設計業務委託等技術者単価（コンサルタント単価）の最低ランクの技術者単価（技術員）の70%相当額の単価を採用

- ・GIS等専門ツールを用いた作業（マップの作成等）
- ・本事業を推進する上で必要となる専門的スキルを要する作業

令和7年度国土交通省設計業務委託等技術者単価

①設計業務

技術者の職種	基準日額(円)	割増対象賃金比(%)
主任技術者	88,600	55%
理事、技師長	77,500	55%
主任技師	66,900	55%
技師(A)	59,600	55%
技師(B)	48,500	55%
技師(C)	40,300	55%
技術員	36,100	55%

単価1：36,100円×70%＝25,270円
⇒25,200円
※100円単位未満切り捨て

(3) 設計業務等技術者

職種区分定義

- ① 主任技術者：先例が少なく、特殊な工法や解析を伴う極めて高度あるいは専門的な業務を指導統括する能力を有する技術者。
工学以外に社会、経済、環境等の多方面な分野にも精通し、総合的な判断力により業務を指導、統括する能力を有する技術者。
工学や解析手法の新規開発業務を指導、統括する能力を有する技術者。
- ② 理事・技師長：複数の非定型業務を統括し、極めて高度で複合的な業務のプロジェクトマネージャーを務める技術者。
- ③ 主任技師：定型業務に精通し部下を指導して複数の業務を担当する。また、非定型業務を指導し最重要部分を担当する。
- ④ 技師(A)：一般的な定型業務に精通するとともに高度な定型業務を複数担当する。また、上司の指導のもとに非定型業務を担当する。
- ⑤ 技師(B)：一般的な定型業務を複数担当する。また、上司の包括的指示のもとに高度な定型業務を担当する。
- ⑥ 技師(C)：上司の包括的指示のもとに一般的な定型業務を担当する。また、上司の指導のもとに高度な定型業務を担当する。
- ⑦ 技術員：上司の指導のもとに一般的な定型業務の一部を担当する。また、補助員を指導して基礎的資料を作成する。

なお、職種区分定義で示されている定型業務、非定型業務については下記を参考に判断するものとする。

- 定型業務
- ・調査項目、調査方法等が指定されており、作業量、所要工期等も明確な業務
 - ・参考となる類似業務があり、それらをベースに応用することが可能な比較的簡易な業務
 - ・設計条件、計画諸元の設定等が比較的容易で、立地条件や社会条件により業務遂行が大きく作用されない業務
- 非定型業務
- ・調査項目、調査方法等が未定で、コンサルタントとしての経験から最適な業務計画、設計手法等を確立して対応することが求められる業務
 - ・比較検討のウエイトが高く、かつ新技術または高度技術と豊かな経験を要する大規模かつ重要構造物の設計業務
 - ・文化性、芸術性が特に重視される業務
 - ・先例が少ないか、実験解析、特殊な観測・診断等を要する業務
 - ・委員会運営や関係機関との調整等を要する業務
 - ・計画から設計まで一貫した業務

※本事業の実際の担当予定技術者は、主任技師相当～技師B相当の技術者となります。

2) 会議への参加（単価 2, 単価 3）

「謝金の標準支払基準」の改定について、平成 27 年 3 月 6 日、各府省等申合せを参考として単価を設定するものとし、区分 6（地方支分部局が開催する一般的なもの）を採用、1 回あたりの会議を 2 時間と想定

- ・ NPO 法人等：幹事・専門委員の単価を採用 ⇒単価 2
- ・ 国立環境研究所：委員・臨時委員の単価を採用 ⇒単価 3

第 2 支払基準

1. 会議出席謝金支払基準

懇談会等行政運営上の会合（以下「会合」という。）への出席に対する会議出席謝金の日額及び時間単価は、原則として別表 1 の標準単価を適用する。

会合の主催者や影響度等を考慮し、別表 1 の備考を参考として、依頼する職名ごとに別表 1 の職名に対応する標準単価の中から適宜単価を選択する。

ただし、職名によらず一律の単価を設定する会合にあつては、別表 1 の標準単価の中から、適宜（日額と時間単価は区別する）単価を選択する。

【別表 1】

単価 3

単価 2

(単位：円)

職名別 単価 区分	標準単価					
	会長		委員（会員）・臨時委員		幹事・専門委員	
	日額	時間単価	日額	時間単価	日額	時間単価
①	22,700	11,300	19,600	9,800	17,700	8,800
②	20,500	10,200	17,700	8,800	15,700	7,800
③	18,400	9,200	16,100	8,000	13,700	6,800
④	16,400	8,200	14,000	7,000	11,700	5,800
⑤	14,400	7,200	12,000	6,000	9,700	4,800
⑥	12,300	6,100	9,900	4,900	7,600	3,800
⑦	10,300	5,100	7,900	3,900	5,600	2,800

(備考)

- 区分①は、中央府省等が開催する会合で最も上位とすることが適当としたもの。
- 区分②は、中央府省等が開催する会合で上位とすることが適当としたもの。
- 区分③は、中央府省等が開催する会合で一般的なもの（大規模）。
- 区分④は、中央府省等が開催する会合で一般的なもの（中規模）、又は地方支分部局が開催する会合で最も上位とすることが適当としたもの。
- 区分⑤は、中央府省等が開催する会合で一般的なもの（小規模）、又は地方支分部局が開催する会合で上位とすることが適当としたもの。
- 区分⑥は、中央府省等が開催する会合で下位とすることが適当としたもの、又は地方支分部局が開催する会合で一般的なもの。
- 区分⑦は、他の区分より下位とすることが適当としたもの。

(提案書 様式④ 最終審査)

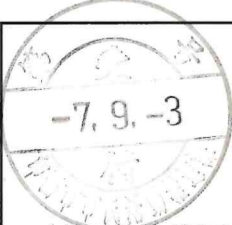
年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数※ ¹
4月上旬	市との打合せ・契約	4名
4月～3月	協議会コアメンバー会議の開催（1回／月程度，年10回）	12名
	検討事項 ①多様な主体の連携の土台作り（交流、情報発信） ②里山保全活動団体の取組推進支援（自然共生サイト登録支援等） ③多様な主体の連携推進の検討 ④対象地の現況把握（情報プラットフォームの基礎構築） ⑤今後の連携の仕組みのあり方／継続的な運営方法の検討	—
6月	いんざい環境フェスタへの出展	—
9月※ ²	協議会（全体会議）の開催 ・活動（里山の保全・活用）における課題の共有・議論 ・活動に役立つ情報の共有 ・印西市における里山の保全・活用、グリーンインフラ推進に関する議論 ・先進事例等の紹介 等	20名
2月※ ²	里山保全団体交流会の開催 ※協議会（全体会議）と共催	30名
3月下旬	市への実績報告 ■成果一覧 ①成果報告書 ・以下の内容について取組成果をとりまとめた報告書 ⇒先進地域の取組事例調査 ⇒里山保全活動団体の取組推進支援に係る成果（自然共生サイト登録に係る成果、対象地における活動の質的・量的向上の支援等） ⇒多様な主体の連携推進の検討に係る成果（市民活動団体等に対するヒアリング結果、庁内関係部局における連携可能性調査結果、事業者ニーズ等の把握結果 等） ⇒協議会の継続的な運営のあり方の検討 ②対象地（市所有・管理地）の現況マップ・リスト（更新） ・印西市が所有または管理する土地（緑地等）の現状（自然環境の状況、管理状況等）を整理したマップ及びリスト ③里山保全活動団体等の現況リスト（更新） ・印西市内で里山の保全活動等の活動を行っている市民団体等の現状（団体概要、活動内容等）を整理・更新したリスト ※公表可能な内容については要調整	4名

※1：想定人数

※2：開催時期は協議・調整により設定

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)

協働の機会提案書(継続提案用)	
<div><div>2025 年 9 月 3 日</div></div>	
(あて先) 印西市長	
(登録者)	登録番号 06 — 001
名 称	印西市市民公益活動団体 Shake Hands
所在地	千葉県印西市草深
代表者	齊藤 ちぐれ
連絡先	
E-mail	shakehands.inzai@gmail.com
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。	
<input type="checkbox"/> 自由提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 指定テーマ型	
提案事業名	#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	男女共同参画に関わる啓発事業の実施
提案理由	<p>本団体 Shake Hands は、「子どもと保護者の“どうしよう”を解決する」ことを目的に、子育て支援とリプロダクティブヘルス/ライツの普及に取り組んできました。特に、思春期における生理や性に関する不安や疑問を解消する支援、親子間のコミュニケーション改善、生理用品の正しい知識提供、女性の健康意識向上を柱とした活動を継続的に実施しております。これらの取り組みを通じて、すべての子どもが性別に関係なく心身と生命の尊厳を大切にできる力を育むこと、そして多様性を尊重した地域社会の形成に寄与することを重視してまいりました。</p> <p>今回の事業テーマと当団体の活動は趣旨が極めて一致しており、これまでの知見と実績を活かすことで、男女共同参画の推進および市民への啓発効果を一層高めることができると考えております。そのため、本事業への参画を提案いたします。</p>
提案内容 (予算の概算は提案 書様式①-4)	<p>(前年度の実施を踏まえた改善内容)</p> <p>本事業では、地域住民が日常生活の中で気軽に立ち寄り、リプロダクティブヘルス/ライツに関する正しい情報と体験を通じた理解を深められる場を提供します。啓発イベントおよび個別相談の両軸で展開することで、</p>

	<p>知識の普及に加え、個別課題への対応も可能とします。</p> <p>① 体験型啓発事業「#私たちの保健室」の開催（全1回）</p> <p>ショッピングモール等の生活動線上に位置する会場において、老若男女を対象とした体験型イベントを開催します。</p> <p>主な内容：</p> <p>01. 展示コーナー</p> <p>リプロダクティブヘルス／ライツに関するパネル展示、関連書籍・性教育絵本の展示、多種多様な生理用品の実物展示</p> <p>02. 体験・学習プログラム</p> <p>初めての生理講話（思春期の体と心の変化、生理用品の使い方）、生理用品を使った吸水実験、性教育絵本の読み聞かせ、EMS 機器による生理痛体験（男性、軽度な生理痛女性の理解促進）</p> <p>②個別相談支援事業「こっトンカフェ」の開催（全10回）</p> <p>男女共同参画センターにて個別相談の場「こっトンカフェ」を定期開催します（当日自由来所制）。安心して過ごせる落ち着いた空間で、掲示物や展示物を通じて正しい情報に触れることができ、来所者自身が抱える課題について、相談員とゆっくり対話を重ねながら解決の糸口を探ります。必要に応じて、行政等の支援機関への同行・連携も行い、課題の早期解決と継続支援に繋げてまいります。</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット</p>	<p>Shake Hands は、子どもや家庭の現場に深く関わる“当事者視点”を重視しながら、専門性と実行力を備えた多様な人材によって構成された団体です。構成員は全員、小・中・高生の保護者であり、地域での実践的な経験を通じて、子育てや教育に関する社会的ニーズを的確に捉える力を有しております。</p> <p>【特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・同性・当事者の視点に基づいた課題把握力 ・多分野にわたる専門資格と現場経験 <p>（例：PTA・保教会本部役員（2018～2025）、子育て支援員、認知症サポーター、民生委員・児童委員、ピアヘルパー、幼児体育初級公認指導員、おもちゃインストラクター、こども環境管理士 2 級、幼稚園教諭、保育士、特別支援学校教諭、社会福祉主事、インクルーシブ保育・教育支援士、体験活動セイフティリーダー・マネージャー、EFR-CFC（子どもの救急法国際資格）、准学校心理士、高等学校教諭一種免許 等）</p> <p>【協働のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略立案から現場運用までを一貫して担える体制

	<ul style="list-style-type: none"> ・行政施策と連動した、地域ニーズに即した柔軟なアプローチ ・現場経験に基づく実効性の高い企画 ・運営力、継続可能な支援体制と地域との信頼関係の構築 <p>Shake Hands は、「地域と子どもの未来に寄り添う協働パートナー」として、行政と連携しながら、住民福祉の向上と持続可能なまちづくりに真摯に取り組んでまいります。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)</p>	<p>本事業を継続的に実施することにより、印西市が掲げる「誰もが安心して暮らせる共生社会の実現」や「子育て世代への切れ目ない支援」「健康・福祉の増進」といった市政方針との整合を図りながら、具体的かつ実効性のある地域支援を推進することが可能となります。</p> <p>定期的な啓発イベントの開催により、リプロダクティブヘルス／ライツに関する知識やジェンダー平等に関する意識が地域全体に浸透し、子どもから大人までが世代・性別を超えて互いを尊重し合う地域風土の醸成が期待されます。特に思春期の子どもや保護者に対する情報提供は、心身の健やかな成長や家庭内コミュニケーションの改善にも寄与し、教育・福祉両面に好影響を及ぼします。</p> <p>また、月 1 回固定曜日に開催する個別相談支援「こっとなカフェ」の継続により、地域住民が日常的に安心して悩みを相談できる場を確保するとともに、行政や関係機関との適切な連携を通じて、早期支援・予防的支援の実現が可能となります。とりわけ、支援にアクセスしにくい層へのアプローチ手段としても有効であり、地域福祉の裾野拡大にも資する取組です。</p> <p>以上のことから、本事業は印西市のまちづくりの基本理念と合致しており、継続実施により、地域住民の健康・福祉・教育・共生の各分野にわたる波及的な効果が期待されます。</p>

協働事業計画書		
事業名	#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～	
事業の目的	<p>本事業は、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの理念を基盤とし、市民一人ひとりが自らの心と身体を正しく理解し、尊重する意識を育むことを目的としています。特に、年齢や性別にかかわらず全ての市民が「自分自身の健康と権利を守る力」を身につけられるよう、体系的な啓発講座や体験型イベントを展開いたします。また、男女共同参画社会の実現に向けて、性に関する正しい知識の普及と、多様な立場にある市民が相互に理解を深め合う場づくりを推進することで、誰もが安心して暮らせる地域社会の形成を図ります。行政との協働により、従来の啓発活動では届きづらかった層へも効果的にアプローチすることが可能となり、市民の健康意識の向上および差別や偏見の解消に資することを目指します。</p>	
市の施策上の位置付け及び協働部署	<p>(施策名) 男女共同参画に関わる啓発事業の実施 (部署名) 市民活動推進課男女共同参画係</p>	
事業期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
事業の内容	提案者	市
詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)	<ul style="list-style-type: none"> ・周知(広報原案、ポスター案及びポスター印刷) ・スケジュール作成、イベント運営、報告 ・備品の手配 ・イベントの運営の人員確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の手配 ・周知(ポスター配布、スクリレ、広報掲載、市HP、SNS) ・ちば電子申請での参加者受付、人数把握及び名簿作成 ・イベント当日の鍵の受け渡し、会場の管理
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	272,200 円	923,680 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	<p>① 提案者メンバー、有償ボランティア</p> <p>② 提案者メンバー(各回2名体制)</p>	

	提案者	市 民	市
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・市と連携することで、これまで届かなかった層への周知・啓発が可能となり、活動の社会的信頼性と影響力が向上する。 ・公共施設の活用や広報支援により、継続的かつ安定的な事業運営が実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や実践的な学びを通じて、自身の心と身体、性に関する正しい理解とセルフケアの力を養える。 ・世代や性別を超えて、互いに尊重し支え合う地域づくりへの主体的な参加が促される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体の専門性や柔軟な発想を取り入れることで、男女共同参画の施策展開が一層具体的・実効的になる。 ・市民の関心が高いテーマに対して、行政単独では難しい草の根的アプローチが可能となり、施策の効果向上が期待できる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	対面、メール		
事業の周知方法	周知方法:市のHP、SNS、広報、スクリレ、団体のSNS、ポスター		
評価の方法 (具体的な目標値)	目標値 ①100名 ②10回		
備 考	関係団体等:コットン・ラボ株式会社、株式会社リンケージ		
	その他(添付書類等) 添付 A(積算根拠):20250830_R7 最終審査_予算内訳_ShakeHands.pdf 添付 B(イベント展示品など):20250830_R7 最終審査_item_ShakeHands.pdf		

(提案書 様式③ 最終審査)

企画提案型協働事業経費内訳書

無償分を含む総事業費 (金 1,195,880 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 金 923,680 円

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		923,680
提案者が負担する額		272,200
その他収入		0
無償分を含めない合計額		923,680
無償労働力等換算金額		(272,200)
無償分を含む総事業費		(1,195,880)

【歳出】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	① 体験型啓発事業 1 回②個別相談 5 回 ※添付 A 参照	392,000
報償費	外部・内部講師指導謝礼 ※添付 A 参照	440,000
旅費・交通費	外部講師交通費、交通費(ガソリン代) ※添付 A 参照	20,200
印刷製本費	告知チラシ・ポスター・プログラム等 ※添付 A 参照	31,000
使用料	会場使用料 ※添付 A 参照	0
消耗品費	※添付 A 参照	36,000
保険料	傷害保険@28 円 ※添付 A 参照	4,480
無償分を含めない合計額		923,680
提案者が負担する 無償労働力(A)	※添付 A 参照	(211,200)

提案者が負担する 無償機材等(B)	ボランティア保険(年間)、生理用品(啓発イベント 土産)	(61,000)
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	(272, 200)
無償分を含む総事業費		(1, 195, 880)

(提案書 様式④ 最終審査)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
2026 年 8 月	体験型啓発事業／イオンホール(1 回) 展示物による啓発活動・実験 VR デバイスを使った生理痛体験	100 名
2026 年 4 月～2027 年 3 月	個別相談支援事業／コスモスパレット(全 10 回) 2026 年 6、7、8、9、10、11、12 月、2027 年 1、2、3 月の固定 曜日、男女共同参画センターにて相談事業「こっトンカフェ」を 開催する(当日自由来所)。 ゆったりと過ごせる空間で、展示物や掲示物をもとに、相談 者が正しい情報に触れる機会を設ける。相談員とゆっくり信 頼関係を築きながら行政へ繋ぐ必要がある場合には同行し て対応する。	60 名 6 名×10 回

番号	品目		01啓発イベント（1回）	02個別相談（10回）	計
1	人件費	講座及びプログラム作成	128000	264000	392000
2	報償費	外部講師謝礼・団体内講師謝礼	440000	0	440000
3	旅費	外部講師交通費	10000	0	10000
		内部スタッフ交通費	3600	6600	10200
4	印刷製本費	チラシ・ポスター・講座プログラム	16000	15000	31000
5	保険料	傷害保険	2800	1680	4480
6	使用料	会場使用料	0	0	0
7	通信費	電話・FAX	0	0	0
8	消耗品費	文具・インク・用紙	26000	10000	36000
9	無償分を含めない合計額		626,400	297,280	923680
10	提案者が負担する無償労働力（A）	事業の準備・調整	52800	158400	211200
11	提案者が負担する無償機材等（B）	損害保険（@100×10名）、生理用品（土産）	60600	400	61000
12	無償労働力等換算金額		113400	158800	272200
13	無償分を含む総事業費		739,800	456,080	1195880

番号	品目	イオン啓発イベント（1回）	単価	数量	単位	計	備考
1	人件費	講座及びプログラム作成		2200	32 h	70400	人件費 = ¥2200/h × 8h × 4人
				1200	48 h	57600	人件費 = ¥1200/h × 8h × 6人
2	報償費	外部講師謝礼・団体内講師謝礼	440000	1	式	440000	外部講師¥440000/日
3	旅費	外部講師交通費	10000	1	式	10000	外部講師10000
		交通費（ガソリン代）	30	120 km		3600	イオンホール往復12km × 10人
4	印刷製本費	チラシ・ポスター・講座プログラム	16000	1	式	16000	* チラシ制作@30 × 100、ポスター@400 × 30、プログラム制作@20 × 50人
5	保険料	傷害保険	28	100 人		2800	
6	使用料	会場使用料	22000	0	式	0	イオンホール会場は印西市負担
7	通信費	電話・FAX		0	式	0	
8	消耗品費	文具・インク・用紙	26000	1	式	26000	実験道具@600 × 30人=18000、文具¥6000、装飾品¥2000
9	無償分を含めない合計額					626400	
10	提案者が負担する無償労働力（A）	事業の準備・調整	2200	24 h		52800	デザイン制作8h、資料制作8h、企画打合4h、進捗管理4h
11	提案者が負担する無償機材等（B）	生理用品代（土産）	60600	1	式	60600	ナプキン・ショーツ@600 × 100 = 60,000、保険6人 × @100
12	無償労働力等換算金額					113400	
13	無償分を含む総事業費					739800	

番号	品目	個別相談（年10回）	単価	数量	単位	計	備考
1	人件費	講座及びプログラム作成	2,200	120	h	264000	人件費＝¥2200/h×6h×2人×10回
2	報償費	外部講師謝礼・団体内講師謝礼	0	0		0	
3	旅費	外部講師交通費	0	0		0	
		交通費（ガソリン代）	30	220	km	6600	コスモスパレット往復11km×2名×10回
4	印刷製本費	チラシ・ポスター・講座プログラム	15,000	1	式	15000	* チラシ制作@30×100、ポスター@400×30
5	保険料	傷害保険	28	60	人	1680	6人×10回
6	使用料	会場使用料	0	0		0	
7	通信費	電話・FAX	0	0		0	
8	消耗品費	文具・インク・用紙・生理用品	10,000	1	式	10000	文具¥4000、インク代¥5000（cannon家庭用インク年間コストサイト参照）、用紙¥1000
9	無償分を含めない合計額					297280	
10	提案者が負担する無償労働力（A）	事業の準備・調整	2,200	72	h	158400	デザイン制作8h、資料制作8h、企画打合4h、進捗管理52h(1h×52週)
11	提案者が負担する無償機材等（B）	損害保険	400	1	式	400	4人×@100
12	無償労働力等換算金額					158800	
13	無償分を含む総事業費					456080	

